

2012

学校法人
金沢医科大学
平成 24 年度事業報告書

平成 24 年度 事業報告書

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)



学 校 法 人
金 沢 医 科 大 学

2013. 5.30

平成 24 年度事業報告にあたって

金沢医科大学は、「良医を育てる」「知識と技術をきわめる」「社会に貢献する」ことを建学の精神にかかげ、「病気ではなく病人を診る」という「医の心」を原点に、患者の立場に立ち、患者に最も適した医療を提供できる医療人を育成してきました。

1972 年の開学以来、今日までに、医学生 3,608 名、看護学生 2,092 名が本学を巣立ちました。それぞれ医療人として国内外で活躍し、社会において種々の貢献がなされております。

平成 24 年度は創立 40 周年という節目を迎え、記念式典等各種事業を展開し、本学の更なる発展に向け新たなスタート地点に立ちました。創立 40 周年記念の一環として進めるグランドデザイン第 1 次 5 カ年計画の中で、若手医師の定着を目的として臨床研修医向けの金沢医科大学レジデントハウスを竣工し、また医学教育棟建設の実施設計など、新しい学園の誕生に向け着実に事業を進めました。そのほか、次世代を支える医療人を育成する機関として、必要な人材の受入れ、機器施設の充実と老朽化対策を実施しました。

大学部門では、入学志願者数の確保と医師及び看護師等の国家試験の合格率向上を最優先課題として取り組みました。この結果、平成 25 年度の医学部入学志願者数は、過去最多となりました。また、看護師国家試験、保健師国家試験では 3 年連続全員合格を達成しました。一方で、医師国家試験は前年度を下回る結果となりましたので、平成 25 年度には、これまで以上に医学教育の強化対策に取り組んでまいります。また、平成 24 年度には創立 40 周年を記念し、若手研究者の育成のため、独創的な研究及び本学卒業生による研究に対し特別助成を実施し、研究の活性化を図りました。

病院部門では、入院の診療単価の増や平均在院日数の短縮により、過去最高の収入額を確保しました。しかし一方で、看護師不足は深刻であり、法人部門と力を合わせ看護師確保対策を進めた結果、前年度より 30 名近くの増員になりましたが、今後も積極的な確保対策を継続してまいります。

金沢医科大学氷見市民病院では、新病院開院 1 年を迎え、医療スタッフの充実、7 対 1 看護体制の確保など診療体制を整備し、医療収入は前年度を上回る結果となりました。

この結果、平成 24 年度の収支決算は、学校法人全体及び氷見市民病院において収入超過となりました。

これからも学内外ともに厳しい環境下にありますが、教育水準、診療活動の向上、そして研究面での活性化を図りながら、本学が、多くの方面からの期待に応えることができる、高い評価を得られる大学をめざして、さらなる発展を期して教職員とともに力を合わせて努力していきたいと考えております。

平成 25 年 5 月

学校法人 金沢医科大学

理事長 竹 越 襄

目 次

平成 24 年度事業報告にあたって.....	3
------------------------	---

I 法人の概要

1. 建学の精神	6
2. 教育目標	6
3. 学校法人の所在地	7
4. 沿革	7
5. 組織	9
6. 役員・評議員・教職員の概要	10
7. 設置する学校・学部・学科等の名称及び定員等	12
8. 附属研究所及び病院	12
9. 設置する学校・学部長等	12
10. 入学試験の状況	13
11. 医師国家試験合格率	13
12. 看護師等国家試験合格率	13
13. 学位授与状況	14
14. 学生数の推移	14
15. 外部資金の獲得状況	14

II. 事業計画の進捗状況

1. 法 人 部 門

1) 金沢医科大学グランドデザイン第 1 次 5 カ年計画	15
2) 創立 40 周年記念関連事業	16
3) 看護師の確保及び定着促進対策	17
4) 内灘はまなす保育園整備事業への協力	17
5) 医学部生・看護学部生への奨学金貸与	17
6) 各種施設設備整備事業	17

2. 大 学 部 門

1) 入学志願者の確保	18
2) 医学教育の充実	19
3) 研究の活性化	21
4) 大学院の活性化	22
5) 図書館の充実	22
6) 国際交流の推進	22
7) 看護学部の整備	23

3. 病 院 部 門	
1) 患者サービスの向上	24
2) 医療安全の確保	25
3) 患者と医療者のパートナーシップ強化	26
4) 医療の高度化と質の向上	26
5) 地域連携・地域貢献	27
6) 教育研修	28
7) 人材確保と就業環境の改善	29
8) 医療機器の整備	29
9) 施設設備整備	30
10) 収支改善	30
11) 組織運営	31
12) 平成 24 年度経営管理指標の達成状況	32
4. 金 沢 医 科 大 学 氷 見 市 民 病 院	
1) 病院事業	34
2) 診療実績の状況	35
3) 職員の採用状況	36
4) 診療体制の整備	37
5) 地域医療連携と地域貢献の推進	38
6) 教育・研修体制の強化	38
7) 収支改善への対応	38
8) 病院管理運営	39
9) 病院将来計画の策定	39
10) 医療機器等の整備	39
11) 経営指標	40
12) 職員数	41
5. 能 登 北 部 地 域 医 療 研 究 所.....	41

Ⅲ 財務の概要

1. 平成 24 年度決算の概要	42
2. 最近 5 カ年の財務状況	49
3. 平成 24 年度金沢医科大学氷見市民病院損益計算書及び貸借対照表	54

I 法人の概要

1. 建学の精神

◇良医を育てる

倫理に徹した人間性豊かな良医を育成する

◇知識と技術をきわめる

医学の深奥をきわめ優れた医療技術を開拓する

◇社会に貢献する

生命の尊厳を基調とし人類社会の医療と福祉に貢献する



2. 教育目標

【医学部】

医学部の教育の基本目標は、建学の精神に述べている「人間性豊かな良医の育成」にある。

「良医」とは、「常に患者の立場に立って考え、個々の患者に最も適した医療を提供できる、そして、それを可能とする知識と技術に精通した医師」である。医学部の6年間の卒前一貫教育、それに続く卒後初期臨床研修、専門医研修、そして大学院においては、まず医師としての人間形成を基本においたうえで、知的好奇心を育み、問題に立脚した解決能力を磨き、急速に進歩する医学に対応して生涯にわたって自己研修を行って未来を開拓していくことができる能力を獲得することを常に基本目標におき、良医育成のためのカリキュラムを展開している。

【看護学部】

確かな知識・技術とともに、豊かな人間性と高い倫理観を備え、医療・保健・福祉領域で活躍できる看護専門職者を育成する。また、看護学ならびに社会の発展に貢献し得る人材を育成する。

1. 豊かな感性と教養、および、高い倫理観を養う。
2. 看護専門職に必要な知識・技術・態度を修得し、看護を実践する能力を養う。
3. 医療・保健・福祉領域の他の専門職者と協働し、看護の専門性を発揮できる能力を養う。
4. 複雑多様化する社会や医療の進歩に伴い、求められる医療や看護に適切に対応できる能力を養う。
5. 生涯にわたって、看護の専門性を深める自己開発能力を養う。
6. 看護専門職者として、国際的な視野をもち幅広い社会活動ができる能力を養う。

3. 学校法人の所在地

石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地（〒920-0293）

4. 沿革

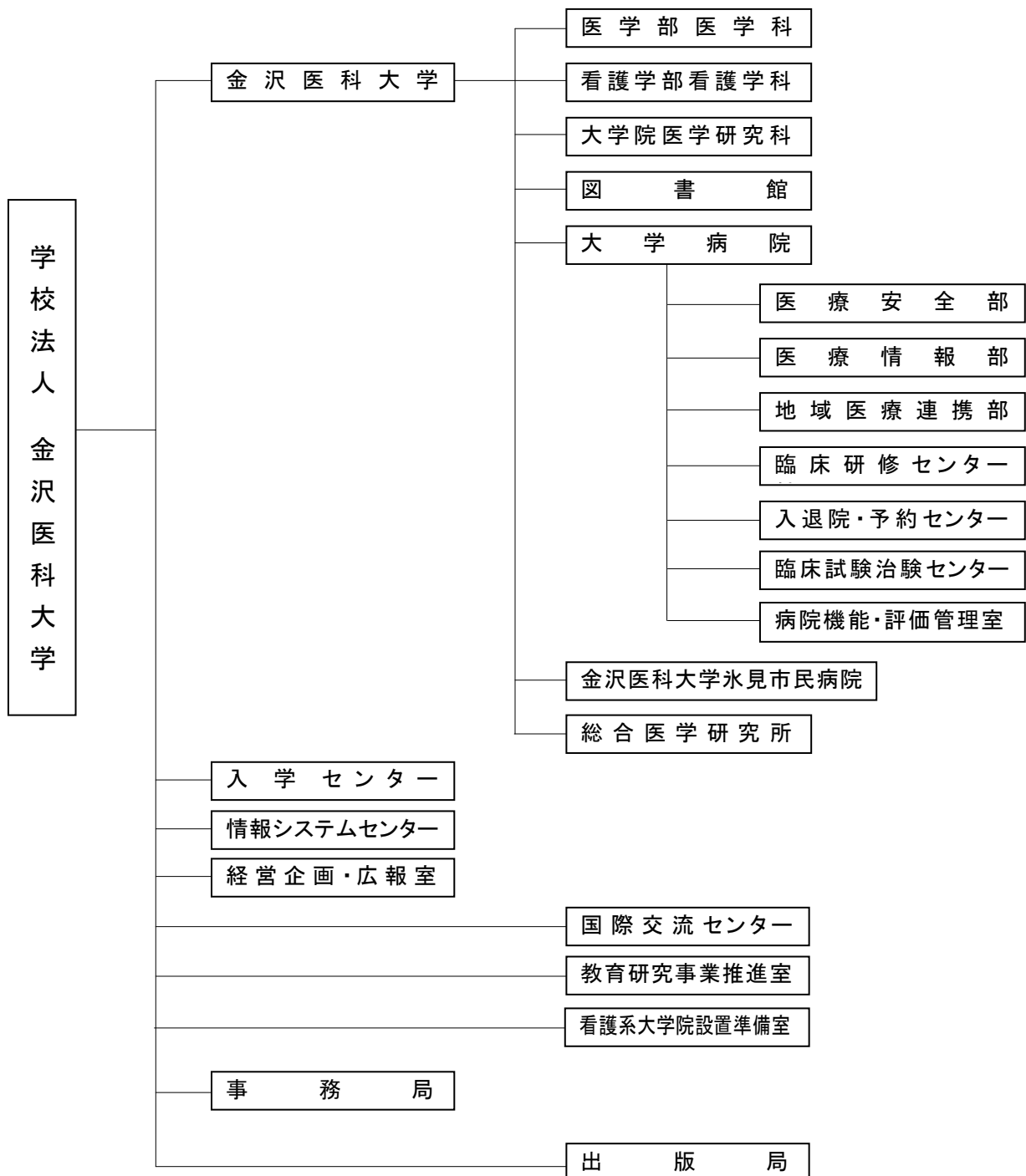
昭和47年	3月30日	学校法人金沢医科大学認可
	6月1日	金沢医科大学開学
昭和48年	4月1日	金沢医科大学附属看護学校開校
昭和49年	9月1日	金沢医科大学病院開院
昭和50年	7月1日	金沢医科大学歯学研究所開設
昭和57年	4月1日	大学院医学研究科設置
昭和58年	4月1日	熱帯医学研究所開設 人類遺伝学研究所開設
昭和62年	2月10日	金沢医科大学病院別館稼働
	3月31日	金沢医科大学歯学研究所廃止
昭和63年	4月1日	金沢医科大学附属看護専門学校に校名を変更
平成元年	4月1日	総合医学研究所開設 (人類遺伝学研究所、熱帯医学研究所、共同研究室を統合)
平成6年	3月24日	厚生省から特定機能病院に承認
平成12年	10月1日	電子カルテ全科実施
平成15年	4月1日	財団法人大学基準協会正会員への加盟・登録承認 大学院医学研究科生命医科学専攻開設
	8月31日	病院新館竣工

平成16年	4月 1日	医学部講座組織の改組
平成17年	10月 1日	21世紀集学的医療センター設置
平成19年	1月22日	病院機能評価バージョン5認定
	4月 1日	金沢医科大学看護学部看護学科開設
	11月21日	氷見市民病院指定管理者に決定
平成20年	3月11日	財団法人大学基準協会大学基準適合認定
	4月 1日	指定管理者制度による金沢医科大学氷見市民 病院開設（私立学校法第26条の収益事業）
平成21年	3月31日	金沢医科大学附属看護専門学校 廃校
平成22年	8月 1日	能登北部地域医療研究所開設
平成23年	2月25日	新アナトミーセンター竣工
	9月 1日	金沢医科大学氷見市民病院移転新築
平成24年	1月22日	病院機能評価バージョン6認定
	10月27日	創立40周年記念式典挙行
	10月31日	金沢医科大学レジデントハウス竣工

5. 組織

金沢医科大学 組織図

(平成 24 年 5 月 1 日現在)



6. 役員・評議員・教職員の概要

役員・評議員・教職員の概要は次のとおり。

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

【役 員】

理 事	理 事 長	竹 越 襄	
	副理事長	高 島 茂 樹 (金沢医科大学氷見市民病院長)	
	副理事長	松 本 忠 美	
	常務理事	中 農 理 博 (事務局長)	
	理 事	勝 田 省 吾 (学長)	
	理 事	川 上 重 彦 (病院長)	
	理 事	山 下 公 一	
	理 事	篠 原 治 道	
	理 事	飯 塚 秀 明	
	理 事	梅 博 久	
	理 事	宮 村 栄 一	
	理 事	坂 本 滋 夫	
	理 事	木 村 晴 夫	
	理 事	大野木 辰 也	
	理 事	伊 藤 博 明	
	理 事	奥 名 洋 明	
	理 事	澁 谷 亮 治	
	理 事	久 藤 豊 治	
	理 事	飛 田 秀 一	
	理 事	大 島 讓 二	
	理 事	吉 田 勝 明	
監 事	大 田 修 米 沢 寛	以上 理事 21 名	
		以上 監事 2 名	

【評 議 員】

竹 越 襄	勝 田 省 吾	川 上 重 彦	高 島 茂 樹
山 下 公 一	篠 原 治 道	中 農 理 博	宮 村 栄 一
奥 名 洋 明	久 藤 豊 治	澁 谷 亮 治	飛 田 秀 一
梅 原 久 範	大野木 辰 也	木 村 晴 夫	小 平 俊 行
高 田 昌 美	梅 博 久	中 川 秀 昭	古 居 滋 仁
宮 本 文 夫	森 豊 茂	森 本 茂 人	横 山 享 勉
伊 藤 透 志	大 島 讓 二	角 田 弘 一	神 田 秀 明
斎 藤 人 道	坂 本 博	吉 田 勝 明	飯 塚 孝 治
伊 川 廣 幸	伊 藤 茂	近 藤 邦 夫	鈴 木 洋 一
鈴木 宗 忍	堂 故 浩 平	飛 田 明 美	姫 野 茂 夫
松 井 泰 成	松 本 達	松 本 忠 隆	八 木 茂 夫
八十出	山 本	横 山	
		以上 評議員 47 名	

【教職員数合計】 (平成 24 年 5 月 1 日現在 単位：人)

年度	教員数		職員数		医員・臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 22 年度 (計)	505	133	330	1,375	71	35	906	1,543
	638		1,705		106		2,449	
平成 23 年度 (計)	512	131	364	1,423	76	29	952	1,583
	643		1,787		105		2,535	
平成 24 年度 (計)	534	142	390	1,461	80	26	1,004	1,629
	676		1,851		106		2,633	

医学部教員数内訳

年度	教授		准教授		講師		非常勤講師		助教		助手・研究員		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 22 年度 (計)	75	6	57	5	49	10	183	26	123	47	9	12	496	106
	81		62		59		209		170		21		602	
平成 23 年度 (計)	80	6	54	4	51	12	190	18	119	54	10	8	504	102
	86		58		63		208		173		18		606	
平成 24 年度 (計)	87	6	56	4	52	11	191	25	130	56	9	11	525	113
	93		60		63		216		186		20		638	

看護学部教員数内訳

年度	教授		准教授		講師		助教		助手・研究員		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 22 年度 (計)	5	6	3	5	0	4	1	11	0	1	9	27
	11		8		4		12		1		36	
平成 23 年度 (計)	4	8	3	6	0	6	1	9	0	0	8	29
	12		9		6		10		0		37	
平成 24 年度 (計)	6	8	1	6	0	5	2	8	0	2	9	29
	14		7		5		10		2		38	

医員・臨床研修医数内訳

年度	医員		臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女
平成 22 年度 (計)	44	17	27	18	71	35
	61		45		106	
平成 23 年度 (計)	42	21	34	8	76	29
	63		42		105	
平成 24 年度 (計)	29	15	51	11	80	26
	44		62		106	

職員数内訳

年度	事務系		技術技能系		医療系		教務系		その他		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 22 年度 (計)	103	144	47	24	174	912	2	24	4	271	330	1,375
	247		71		1,086		26		275		1,705	
平成 23 年度 (計)	99	132	42	20	197	947	3	26	23	298	364	1,423
	231		62		1,144		29		321		1,787	
平成 24 年度 (計)	100	132	44	19	212	959	6	31	28	320	390	1,461
	232		63		1,171		37		348		1,851	

* 技術技能系・・・技術職員・技能職員 * 医療系・・・看護職員及び医療技術系職員

* 教務系・・・研究補助員等 * その他・・・臨時・パート・補助員等

※金沢医科大学氷見市民病院を含む教職員数

7. 設置する学校・学部・学科等の名称及び定員等

平成24年度において、本法人が設置する学校・学部・学科等は下記のとおり。

(平成24年5月1日現在)

(単位：人)

学 校 名		入学定員	収容定員	現員
金沢医科大学	大学院 医学研究科	35	140	83
	医学部 医学科	110	640	657
	看護学部 看護学科	60 3年次への編入 10	260	256
合 計		215	1,040	996

8. 附属研究所及び病院

名 称	所 在 地
金沢医科大学総合医学研究所	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地（〒920-0293）
金沢医科大学病院	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地（〒920-0293）
※金沢医科大学氷見市民病院	富山県氷見市鞍川1130番地（〒935-8531）

※金沢医科大学氷見市民病院は私立学校法第26条の収益事業。設置者は富山県氷見市。

9. 設置する学校・学部長等

(平成24年5月1日現在)

金沢医科大学	学長	勝田 省吾
医学部	医学部長	梶 博久
看護学部	看護学部長	伊川 廣道
大学院医学研究科	研究科長	中川 秀昭
一般教育機構	機構長	松田 博男
図書館	館長	利波 久雄
総合医学研究所	所長	竹上 勉
学生部	部長	森本 茂人
医学部教務部	部長	横山 仁
医学教育センター	センター長	飯塚 秀明

10. 入学試験の状況

・医学部入試状況

年 度	一 般						推 薦※			AO		
	志願者	入学者	倍率	入学者内訳			志願者	入学者	倍率	志願者	入学者	倍率
	(人)	(人)	(倍)※	現役	一浪	その他	(人)	(人)	(倍)※	(人)	(人)	(倍)※
平成 23 年度	2,258	69	32.72	4	14	51	86	26	3.31	136	10	13.60
平成 24 年度	2,427	67	36.22	3	25	39	95	26	3.65	156	12	13.00
平成 25 年度	2,527	70	36.10	4	17	49	98	26	3.77	163	13	12.54

※推薦には指定校・指定地域推薦を含む。 ※倍率＝志願者÷入学者

*編入学（第1学年後期編入）は除く。

・看護学部入試状況

年 度	一 般						推 薦		
	志願者	入学者	倍率	入学者内訳			志願者	入学者	倍率
	(人)	(人)	(倍)※	現役	一浪	その他	(人)	(人)	(倍)※
平成 23 年度	163	46	3.54	44	2	0	47	22	2.14
平成 24 年度	202	47	4.30	45	1	1	41	22	1.86
平成 25 年度	229	59	3.88	49	7	3	22	20	1.10

※倍率＝志願者÷入学者 *編入学（第3年次編入）は除く。

11. 医師国家試験合格率

年（回）	新卒者のみ	既卒者込	全国平均
平成 23 年（第 105 回）	82.5%	81.4%	89.3%
平成 24 年（第 106 回）	93.0%	90.1%	90.2%
平成 25 年（第 107 回）	74.0%	74.6%	89.8%

12. 看護師等国家試験合格率

・看護師国家試験合格率

年（回）	卒業生	全国平均
平成 23 年（第 100 回）	100%	91.8%
平成 24 年（第 101 回）	100%	90.1%
平成 25 年（第 102 回）	100%	88.8%

・保健師国家試験合格率

年（回）	卒業生	全国平均
平成 23 年（第 97 回）	94.1%	86.3%
平成 24 年（第 98 回）	92.9%	86.0%
平成 25 年（第 99 回）	100%	96.0%

・助産師国家試験合格率

年（回）	卒業生	全国平均
平成 23 年（第 94 回）	100%	97.2%
平成 24 年（第 95 回）	100%	95.0%
平成 25 年（第 96 回）	100%	98.1%

13. 学位授与状況

（単位：人）

研究科	学位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
医学研究科	博士（課程）	19	13	18
	博士（論文）	3	1	5
計		22	14	23

14. 学生数の推移

（単位：人）

学校名	学部・研究科	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
金沢医科大学	医学部	672	666	657
	看護学部	256	251	256
	大学院医学研究科	87	84	83
計		1,015	1,001	996

15. 外部資金の獲得状況

平成 24 年度

（単位：円）

種 別		医 学 部	看護学部	総合医学研究所	一般教育機構	合 計
1	科学研究費補助金	155,792,000	25,051,000	10,270,000	4,433,000	195,546,000
2	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	81,022,240	－	56,979,726	－	138,001,966
3	民間の研究助成団体等からの研究助成金	110,690,000	－	1,000,000	－	111,690,000
4	研究助成金（奨学寄付金）	394,789,665	－	12,200,000	－	406,989,665
5	受託研究費	33,342,907	120,000	55,879,726	－	89,342,633
6	共同研究費	50,905,555	500,000	－	－	51,405,555
7	その他（研究関連収入）	6,294,564	－	500,000	－	6,794,564
研究費総額		832,836,931	25,671,000	136,829,452	4,433,000	999,770,383

- ・ 1～2 は、間接経費を含む。また、学外から配分された額（分担金）を含む。
- ・ 4～7 は、申込書受付ベースの額。
- ・ 5 は、治験を除く額。
- ・ 健康管理センター等は医学部でカウント
- ・ FDD-MB センターは総合医学研究所でカウント

Ⅱ．事業計画の進捗状況

1．法人部門

1) 金沢医科大学グランドデザイン第1次5カ年計画

創立40周年記念事業の一環として進められているグランドデザイン第1次5カ年計画の第3年度目となる平成24年度には、以下の事業を実施した。

- ・臨床研修医定着促進のためのレジデントハウスの建設は、遅滞無く平成24年10月に竣工し、記念式典時には施設見学が行なわれた。施設の概要は、鉄骨造8階建て、延べ床面積4,956.95㎡(約1,500坪)、2LDK12戸、1LDK53戸のほか、カンファレンスルーム、談話室、トランクルームなどを備えた。平成25年3月18日に登記を完了した。
- ・平成24年度は医学教育棟建設のための実施設計を進めたが、当初の工程より遅れ、現時点で旧アナトミーセンター・旧CT室・旧RI棟の解体工事の途中の段階である。医学教育棟の概要は、鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造地下2階・地上6階建て、延べ床面積約18,000㎡(約5,445坪)である。



グランドデザインパス



レジデントハウス（竣工時撮影）

2) 創立 40 周年記念関連事業

・ 創立 40 周年記念募金事業

グランドデザイン第1次5カ年計画の遂行のため、平成23年11月から平成25年10月までを募集期間とし、募金委員会を中心として総額15億円を目標に積極的な募金活動を展開した。募金趣意書や募集のためのホームページにより支援を呼びかけたほか、各種会合等の機会を利用し、本学教職員、卒業生、学生の父兄、その他関係団体をはじめ、広く民間企業、一般の篤志家の方々に対して募集活動を行った結果、平成25年3月末時点での寄付金総額は、約6億5,000万円となった。

・ 創立 40 周年記念式典等の開催

平成24年10月27日（土）にホテル日航金沢を会場に、学内外から約500名の参加の下、記念式典、記念講演会及び祝賀会が開催された。併せて、グランドデザイン第1次5カ年計画の一環として新設されたアナトミーセンター及びレジデントハウス、並びに金沢医科大学氷見市民病院の施設見学会を行った。

・ 創立 40 周年記念映像の作成

創立40周年を機に、ひとりでも多くの若手医師の本学病院への定着を目的に、医学部生や本学の医学部への入学を希望する学生に向けて、本学病院の臨床研修プログラムの特長や魅力、プロフェッショナル・キャリアパスのイメージを広く伝えるためのプロモーション映像（DVD）を制作した。同DVDは創立40周年記念式典の参加者や大学関係者に配付したほか、学生募集活動等で利用されている。

・ 金沢医科大学四十年史（本学通史）及び創立 40 周年誌の発行

出版局から、金沢医科大学四十年史（本学通史）及び金沢医科大学創立40周年記念誌（北辰同窓会誌並びに看護同窓会誌）を、平成24年11月1日付で各3,700部発刊した。本学の40年の歩みを紹介するとともに今後のご協力を仰ぐため、40周年記念式典出席者、創立40周年記念募金寄付者、関連省庁、関連病院関係者、後援協力会、同窓会並びに在学生保護者等に寄贈・贈呈した。

・ 創立 40 周年記念植樹（ワシントンの桜・里帰り事業協賛）

本学では創立40周年記念事業の一環として、「ワシントンの桜・里帰り事業」（北國新聞社主催）へ協賛を行い、平成24年6月に高峰さくらの苗木を金沢医科大学慰霊碑前に3本（記念プレート1基）、アナトミーセンター前庭に1本、金沢医科大学氷見市民病院構内に1本、植樹した。



創立 40 周年記念式典

3) 看護師の確保及び定着促進対策

急性期病院として手厚い看護配置による安全で質の高い入院機能(7対1看護体制の確保、特定集中治療室加算の算定等)体制を維持・継続するため、看護師確保を喫緊の課題として以下の対策を実施した。その結果、平成25年4月の新規採用者が73名となり、前年と比し25名増となり、看護職員の総員は700名から729名となった。

・看護職員就業支度金制度の創設

新たに勤務する看護職員に対し、赴任旅費及び就業支度金を支給した。対象人数は、赴任旅費支給が73名(総額200万円)、就業支度金支給が27名(総額800万円)となった。

・新卒者、再就業希望看護師の募集活動

看護師確保対策委員会を中心に、パンフレット作成、石川県内民放4局でのTVCM放映、北陸三県を中心に看護師養成施設26校への訪問、看護部ホームページの更新、就職情報サイトへの登録、合同就職説明会(金沢、大阪、京都、札幌、松本、新潟、来場者328名)への参加など募集活動を行った。また、本学看護学部生と病院看護部との懇談会を平成24年7月に開催し、8月に採用試験を実施したほか、6月から院内での病院説明会(見学会)を計8回開催し、採用試験は計7回実施した。

・夜間看護手当・年末年始手当の増額及び交替制看護業務手当の新設など待遇改善

他医療機関における雇用条件等に照らして当院における雇用条件の見直しや、福利厚生の充実について検討し、平成24年4月1日に職員給与規則及び職員給与支給細則の一部改正を実施した。

・早期離職防止を目的とした教育の強化・充実

専門看護師や認定看護師などの専門資格取得機会の提供と経済的支援の制度化、リフレッシュ研修手当を利用した学会参加や病院見学などにより、看護師の離職防止に努めた。

4) 内灘はまなす保育園整備事業への協力

看護師、女性医師等の子育て支援の一環として、本学の勤務形態に合わせた保育環境を提供してもらうため、内灘はまなす保育園の整備事業に対し資金面での協力を行った。平成25年3月現在、65名の教職員が同保育園を利用している。

5) 医学部生・看護学部生への奨学金貸与

医師・看護師確保対策の一環として、本学の医学部生、看護学部生を対象に金沢医科大学病院において一定期間勤務することにより返還が免除される奨学金制度を継続し、人材の定着化を目指し、医学部学生計32名、看護学部学生計212名に貸与した。

6) 各種施設設備整備事業

①駐車場の整備

ランドデザイン第1次5カ年計画を進めるにあたり、工事期間中の安全性・作業性を確保するために従来の駐車場が使用不可能になることから、以下の対策を実施した。

- ・グラウンドの整備及び一部を駐車場に転用し、284台分を確保した。
- ・患者駐車場内の仮設クリーニング棟を解体撤去し、跡地を駐車場として整備を行ない、47台分を確保できたことで、朝の混雑解消に繋げることができた。また、病院別館北側の壁面に庇を設けドクターカーの常時駐車場の確保と充電コンセント等の設備を補完した。
- ・ハマナス地内の砂利敷きの暫定駐車場(収容114台)をアスファルト舗装したことで、利用率及び利便性を高めた。

②構内施設設備の整備

構内施設設備の老朽化対策、長期的な機能維持を目的に、以下の構内施設設備の更新を実

施した。

- ・基礎研究棟電気室受変電設備更新の3期工事として、基礎研究棟の電灯系統の更新及び停電用仮設電源切替盤を設置した。内容としては、低圧配電盤3面の更新とともに、電灯用変圧器 250kVA 1台、200kVA 2台を乾式 300kVA 変圧器 3台に更新した。併せてこれら電気設備のための冷却用空調設備を設置した。
- ・中央監視装置の設置後26年を経過し、部品の確保が困難となり保守体制も難しくなっていることから実施する中央監視装置リモートステーション更新2期工事として、病院用変電所、クラブハウス、基礎研究棟、本部棟、教養棟、図書館の監視装置を改修した。
- ・病院新館地階の吸収式冷凍機の整備は、平成23年度の1号機に引き続き、2号機の整備を実施したことにより、突発的故障の低減、冷凍機性能の長期維持が保証された。また、主に手術部やハートセンターなどの重要な部門へ冷水を供給し、冷暖房の中間期に活躍するターボ式冷凍機については、オーバーホールを行なった。
- ・PCB対策においては、平成24年度は教養棟電気室の2台、本部棟1台のコンデンサーの更新を実施した。

2. 大 学 部 門

1) 入学志願者の確保

【医学部】

平成25年度医学部入学生募集にあたり、年度当初に入学志願者数2,750名以上の確保を目標に掲げ、受験情報誌への広告掲載、ホームページ及び携帯電話サイトでの情報公開のほか、以下の対策を実施した。その結果、前年度の2,678名から110名増の2,788名の志願があった。

また、平成24年度第1学年後期に編入学となる編入学試験では、制度改革後5年が経過し認知度が向上していることもあり、75名の出願があり、5名が入学をした。医学部特別奨学金貸与制度では入学生109名のうち4名が特奨生として入学をした。

・私立医科大学合同進学相談会への参加

私立医科大学合同の「私立医科大学合同進学相談会」について、全国4地区5回開催の全会場に参加した。8月の中部ブロック相談会では本学が当番校となり、本学を会場に私立医科大学29校が参加（うち8校は資料参加）し、実施された。全会場で約1,492名の参加があり、入学センターでは首都圏での開催には3名体制で臨むなどして、本学ブース訪問者に説明を行い、積極的に本学への進学を呼びかけた。

・医学部進学予備校訪問の拡大

東京、大阪、名古屋、福岡といった首都圏の予備校を中心に前年度の40校よりも訪問校数を増やし、出願実績のある50校を訪問し、より多くの進路指導担当教員や予備校生に対して、本学をアピールした。訪問予備校では、予備校生を対象とした説明会を行った。

・石川県内開業医への入試情報DMの送付

平成21年度から導入された指定校・指定地域推薦入試制度について、石川県内の開業医（約700件）を対象に、同制度の概要や入試説明会・オープンキャンパスの開催案内をダイレクトメールで送付した。その結果、指定校・指定地域推薦入試への志願者は7名（前年度は3名）となった。

【看護学部】

平成 25 年度看護学部入学生募集にあたり、年度当初に入学志願者数 250 名以上の確保を目標に掲げ、受験情報誌への広告掲載、ホームページ及び携帯電話サイトでの情報公開のほか、以下の対策を実施した。その結果、前年度の 243 名から 8 名増の 251 名の志願があった。

また第 3 学年に編入学となる編入学試験では、全国的に編入学に対する志望が減少している傾向も影響し、募集定員 10 名に対し 4 名が出願、1 名が入学をした。看護学部特別奨学金貸与制度では入学生 79 名のうち 2 名が特奨生として入学をした。

・ 高等学校、専門学校の訪問拡充

前年度に引き続き、北陸三県高校訪問（約 100 校）の他、新潟県、岐阜県の高校のうち、石川県寄りの高校 75 校に対して、5 月の早い時期に訪問した。更に、出願実績のある北陸三県の主要高校 61 校については 10 月中旬から下旬にかけて再訪問を実施し、進路指導担当教諭に対して、本学への進学指導をお願いした。その結果、一般入学試験では過去最多となる志願者数を確保した。

・ テレビコマーシャルの放映

前年度に作成した看護学部認知度向上を目的とした 15 秒の TVCM を石川県内の民放 3 局にて放映した。受験生（高校生）が進路を検討する初期段階（7 月下旬から 8 月上旬）に集中して放映したことにより、志願者増に繋がった。

・ 奨学金 PR リーフレットの作成

他の看護大学や看護専門学校の奨学金制度と比べ、充実した制度である本学看護学部の奨学金制度について、奨学金制度を分かりやすく解説したリーフレットを平成 23 年度から作成しており、24 年度も引き続き作成し、高校訪問、オープンキャンパス及び進学相談会などにおいて、受験生や父母、高校教諭に配付し、制度の周知に努めた。その結果、平成 25 年度看護学部入試では推薦、一般入試を合わせ志願者の 76%が奨学金を申請した。

・ 編入学 PR パンフレットの新規作成

低迷する看護学部編入学志願者の募集活動強化の一環として入試日程の早期公表や入学試験要項の早期頒布を行ったほか、編入学制度を分かり易く記載したパンフレットを新たに作成し、北信越地区の看護専門学校や医療系短期大学に郵送または持参し本学への編入学を積極的に告知した。

・ 看護学部紹介ビデオの新規制作

高校訪問やオープンキャンパス及び説明会において看護学部の教育の現況や学びの環境を映像で紹介することにより、受験生及び父母、高校教諭等に本学看護学部の新しい力（息吹）を感じ取ってもらうことを目的に、学部紹介ビデオを新規に制作した。

2) 医学教育の充実

卒前医学教育の充実を図り、良医の育成及び医師国家試験の合格率の向上を目指して、以下の事業を展開した。

①医師国家試験強化対策

国試対策室及び国試対策委員会が中心となって以下の対策を実施し、平成 25 年 2 月実施の第 107 回医師国家試験では、新卒 100 名中 74 名が合格（合格率 74.0%）、既卒 14 名中 11 名が合格（合格率 78.6%）、総合で 114 名中 85 名が合格（合格率 74.6%）した。

- ・ 病院本館 5 階「ステューデント・ドクター医局（通称：SD 医局）」を学習の拠点とし、教材の充実やグループ学習室内の環境を整備した。
- ・ 国試対策強化合宿や個人面接及び既卒者との面談等を実施した。

- ・標準試験に係る試験管理システムの採点機能の強化及び出題基準の更新を実施した。
- ・後援会の支援により、全国模試や予備校講師による講義等を実施した。



スチューデント・ドクター医局の様子

②臨床教育の充実

平成 21 年度に開設したクリニカル・シミュレーション・センター（CSC）では、臨床実習前、臨床実習中の利用が着実に増加し、平成 24 年度は年間利用者が 1 万人を超えた。医学部学生、看護学部学生、臨床研修医、医師、看護師等を対象に更なる臨床教育の充実を目指し、文部科学省私立大学教育研究活性化設備整備事業補助金により「血管インターベンション・シミュレーション・トレーナー」（4,998 万円）を整備した。そのほか、利用者からのニーズに対応し、監視除細動装置など臨床現場で必要なトレーニング用設備 10 点（524 万円）を整備し、臨床教育の充実を図った。

③教育環境の整備

学生に良質な医学教育を提供するため、年度計画に基づき、次のとおり教育環境の整備を実施した。

- ・教養棟 B13, B14, B15 各講義室の床タイル及び内壁等を補修・整備した。
- ・臨床研究棟 M40 及び M50 実習室の空調設備を更新・整備した。
- ・病院本館 5 階 SD 医局のグループ学習室を 5 室増設した。
- ・電子シラバスのサーバ本体の更新及び同シラバスにおける携帯ネット機能の強化（受信トレイ化、時間割閲覧、PDF リンク等）を実施した。
- ・電子ジャーナルにおいて、医療手技動画教材（Procedures Consult）に加え、看護手技動画教材（Nursing Skills）の閲覧を可能とした。
- ・各講座から要望のあった教育・実習用機器について、整備検討委員会において緊急性、必要性等を審議し、アルクネットアカデミー（英語教材）の更新及び超音波レポートシステム等、計 10 件（987 万円）の整備を実施した。

④学生生活の環境整備

学生により良質な学生生活を提供するため、年度計画に基づき、次のとおり学生生活環境の整備を実施した。

- ・従来、紙媒体であった学生証を IC カード化し、図書の貸出し及び諸施設への入退館手続きの一元化により、利用者の利便性の向上を図った。
- ・教養棟 1 階に男子学生用（第 1 学年～第 4 学年）の更衣室及びロッカーを整備した。

- ・ 損傷劣化の著しいテニスコートの整備（Cコート全面張替）、ヨット部の練習に不可欠な救命艇の更新及び体育館内の製氷機の更新等を実施した。

3) 研究の活性化

①科学研究費助成事業（科研費）等の外部資金獲得件数の拡大

科学研究費助成事業（科研費）の研究代表者としての獲得件数・金額（直接・間接経費の総額）は、103件、1億7,862万円（昨年度75件、1億7,082万円）で、件数・金額とも過去最高となり、私立医科大学29校中22位（昨年度21位）となった。また、私立大学では申請550校中45位（昨年度535校中40位）であった。

②特別研究推進事業等

本学創立40周年を記念し、本学における研究の更なる活性化と若手研究者の育成を目指し、部門間を越えた研究、本学を代表する独創的な大型研究及び本学卒業生による研究に対しての特別助成「特別推進研究」、「特別奨励研究（A）（B）」（総額1億円）を前年度から継続して実施した。また、「アシスト KAKEN」、「共同研究・奨励研究」制度（総額2,650万円）を活用した研究助成事業を実施した。

③産学官連携等の推進

本学における研究成果の社会還元、産学官連携及び大学間連携の推進を目的とし、以下の事業を実施した。

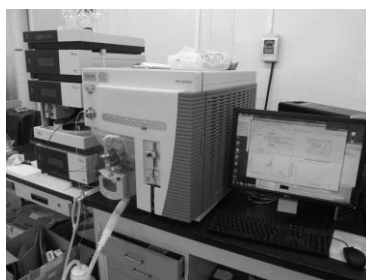
- ・ BIO tech2012、Bio Japan2012、JST 新技術説明会等のビジネスフェアや地域企業とのビジネスマッチングへ参画し、複数の研究課題が企業との共同研究等へと発展した。
- ・ 金沢工業大学との医工連携プロジェクトを中心に依頼した特許は6件（昨年度7件）であり、職務発明規程を制定した平成19年度から数えて延べ30件となった。
- ・ 北陸における臨床研究の基盤整備を目的とし、新しい研究推進体制及び治験・臨床研究ネットワーク体制を整えるため発足した「北陸臨床研究推進機構」（富山大学、金沢大学、金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、福井大学及び本学の6大学）に参画した。
- ・ 本学での研究成果の社会還元の一環として、小学生5、6年生を対象とした「ひらめき☆ときめきサイエンス」及び高校生のための医学の魅力講座「七尾高校スーパーサイエンスハイスクール金沢医科大学プログラム」を前年に引き続き実施した。

④共同利用機器等の整備

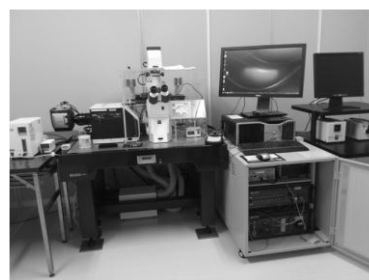
医学部、看護学部及び総合医学研究所など学内研究者の研究環境の向上を目的に、文部科学省の補助金交付を受け、大型共同利用機器「DNAシーケンサー」を導入した。また、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に2件の研究プロジェクトが採択され、「セルソーターシステム」、「質量分析システム」、「高速高感度タイムラプスシステム」及び「f-MRI 用音・画像刺激提示装置」の大型共同利用機器を導入した。



セルソーターシステム



質量分析システム



高速高感度タイムラプスシステム

4) 大学院の活性化

① 北陸がんプロフェッショナル養成プログラム

平成 24 年度より「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」が文部科学省補助事業として新たに採択され、北陸の 5 大学（本学、金沢大学、富山大学、福井大学、石川県立看護大学）の連携により、共通カリキュラムによる融合型教育の相互補完、テレビ会議システムによる双方向型授業等を実施した。科目等履修生として新たに 1 名を受け入れ、7 名の履修生が在籍し 1 名が修了した。FD 講演会 6 件（循環制御学 1 件、腫瘍病理学 4 件、免疫生物学 1 件）、市民公開講座 2 件（腫瘍内科学、精神神経科学）を開催し、がんサーボード症例検討会（22 回開催）において症例提示を 5 回担当した。

② 大学院生奨学費

経済的負担の軽減による大学院生の確保を目的に、1 年次から 4 年次までの大学院生 83 名に対して、学納金の減免を行った。また、大学院修了後の本学定着を目的に奨学金貸与制度を設けているが、留学生を除く入学者全員が社会人学生であったため、平成 24 年度は希望者がなかった。

③ 大学院入学者の増加

平成 25 年度大学院入学者募集にあたり、初期臨床研修医 2 年次入学制度の導入及び北陸がんプロ履修科目を大学院履修科目として単位認定するため、大学院学則の改正を行い、研修医を対象とした入試説明会を開催し、個別相談にも積極的に応じた結果、大学院開設以来、初めて入学定員（35 名）を上回る 38 名が入学することとなった。

5) 図書館の充実

① 電子ジャーナルの整備

本学では平成 18 年度から電子ジャーナルを導入しており、平成 24 年度には約 5,600 タイトルがフルテキストで閲覧可能となっている。学内説明会の開催や学外からの閲覧が可能であることを周知し、電子ジャーナルの利用を促進した。

6) 国際交流の推進

① 短期研究員受入事業

優秀な外国人研究者を獲得し、本学の研究活性化を図ることを目的とし、以下の短期研究員及び留学生の受入事業を実施した。

- ・ 中国の 3 姉妹機関（中国医科大学、華中科技大学同济医学院、中日友好病院）との共同研究を推進するため、姉妹校プロジェクト研究員の受入れを実施した。姉妹校プロジェクト研究課題として本学から申請のあった 8 件に対し、中国医科大学から 2 件の応募があり、選考の上、姉妹校プロジェクト研究員 2 名を決定し、受入れた。
- ・ 姉妹校枠以外として、外国人短期研究員 1 名を決定し、受入れた。
- ・ 姉妹校大学院生として 1 名（中国医科大学、平成 25 年 4 月入学）を受入れた。

② 海外教育交流事業

本学学部生の国際感覚と英語コミュニケーション能力を高めることを目指し、アメリカ及びヨーロッパの協定校との交流を、以下のとおり推進した。

・海外医学研修プログラム

国名	派遣/受入	大学	人数	期間
アメリカ	受入	マーサ大学	3	H24/4/2～4/13 (2週間)
		バーモント大学	1	H24/9/3～9/21 (3週間)
			2	H24/12/3～12/7 (1週間)
	派遣	マーサ大学	3	H25/3/10～3/24 (2週間)
		バーモント大学	3	H25/3/10～3/24 (2週間)
		ハワイ大学	1	H25/3/2～3/31 (4週間)

・語学研修プログラム

国名	派遣先	人数	期間
アメリカ	ソノマ大学	8	H24/7/11～8/18 (5週間)

- ・平成 24 年度日本学生支援機構留学生交流支援制度「ショートステイ・ショートビジット」に、「米国医学生と共に学ぶ医学臨床実習」プログラムとして応募し、採択された。海外医学研修プログラムのうち、マーサ大学、ハワイ大学、バーモント大学の派遣 7 名、受入 4 名の計 11 名の学生について、本制度による奨学金(総額 88 万円)を支給した。

③海外学術交流事業

中国・ベトナム・ロシアの姉妹機関との交流促進のため、相互訪問等によってお互いの理解を深めることを目的に、次の事業を実施した。

- ・本学と華中科技大学同済医学院の日中学術講演会 2012 (第 3 回) を平成 24 年 5 月 19 日 (土)、本学病院新館 12 階大会議室において、「感染と免疫」をテーマに次のとおり実施した。

本学講演者：免疫学・中村晃教授、消化器内科学・堤幹宏教授、血液免疫内科学・梅原久範教授

同済医学院：協和医院感染科主任楊東亮教授、基礎医学院免疫学系副主任尹丙姣教授、基礎医学院副院長呉雄文教授

7) 看護学部を整備

①収容定員増の認可申請

本学病院において看護師確保は重要な課題であり、その対策として、平成 24 年 1 月に 60 名である看護学部入学定員の増員を検討する委員会を学部内に設置し、平成 25 年度からの収容定員増の課題を検討するとともに、本学部の特色を打ち出し、優秀な学生の確保対策を検討した。

その骨子は、入学定員 60 名を 10 名増員し 70 名とし、併せて収容定員 260 名を 300 名に変更するもので、平成 24 年 5 月及び 6 月に文部科学省 (医学教育課・大学設置室) に学則の変更認可申請を行い、同年 8 月末に認可を受けた。

②教育体制の強化

看護学部内で使用していた実習機材をより効果的に使用するため、クリニカル・シミュレーション・センター (CSC) へ移管し、CSC の機材と併用して模擬実習を行った。併せて e-ラーニングを用いたナースングスキル学習プログラムを導入することにより、模擬体験、反復練習を通して看護技術を更に向上させることができた。

また、本学独自の特色ある科目「国際・異文化看護実習」では、看護師としての国際的な視野を広めるため、3 名の学生が本学姉妹校である中国・華中科技大学同済医学院を訪問し、5 日間の看護実習を体験した。

③看護師等国家試験対策への取り組み

クラス担任が入学時から一貫したきめ細かい教育指導を行うことに加え、国家試験対策委員が模擬試験の分析結果を踏まえ、成績下位グループに対して特別講義や個別の学習相談を実施した結果、看護師及び助産師国家試験については、平成 22 年度の第 1 期生から、

3 年連続 100%の合格率を達成した。また、平成 24 年度については、看護師・保健師・助産師の国家試験合格率が全て 100%という全国看護系大学で 1 位（他 4 大学）となる好成績となった。

④ 教育環境整備

学生に良質な教育環境を提供するため、次のとおり施設設備整備を実施した。

- ・平成 22 年度から行っている旧看護専門学校のリニューアル化を推し進め、3 号棟第 3 講義室の机・椅子、及び第 1 講義室の空調設備を更新し、学習環境の改善を図った。
- ・2 号棟 2 階のセミナー室は、自主学習及び試験勉強のため 22 時まで開放しているが、1 階のラウンジから距離があり、看護学部棟周辺で不審者が増加していること等から、防犯対策として、セミナー室廊下に防犯ベル 3 台を設置した。
- ・平成 25 年度からの入学定員増員に備え、看護学部 1 号棟実習室に実習用ベッド 4 台及び備品を配置した。また、教養棟 B11・B12 講義室を統合し 86 名収容の講義室に改修し、併せて講義室の教卓マイク・ビデオ等を更新・整備した。

⑤看護系大学院の設置準備

看護学に関する幅広い学識と問題解決能力を有する高度専門看護職者を養成するため、看護学研究科（修士課程）を開設することとなり、平成 27 年度の開設を目標に、平成 24 年 4 月に看護系大学院設置準備室（室長：伊川看護学部長）を設置した。看護系大学院設置準備室では、設置計画案の策定、大学院担当教員の確保並びに地域社会におけるニーズ調査や看護職者、看護学部学生への進学意向調査等を実施し、平成 26 年 5 月の文部科学省への設置認可申請に向けての準備を進めている。

3. 病 院 部 門

1) 患者サービスの向上

①接遇改善の推進

病院医療サービス向上委員会は、職員の接遇技術向上を目的に研修会を開催しており、接遇だけにとどまらず、患者及び職員の満足度を高めることを目指し、さまざまな視点から研修会を実施している。平成24年度は、平成25年2月に開催され、医師、看護師、コメディカル、事務職員、また他の医療機関からの参加者も含め485名の参加があった。

②外来診察待ち時間の短縮化

外来待ち時間については、実態把握と原因分析のため、継続して調査を実施しており、採血・採尿の待ち時間は平均20分～30分以内、心電図は平均20分以内、会計窓口は平均10分～15分である。待ち時間の負担軽減を図るため、採血室では技師の集中配置や、受付に待ち時間を表示するなどの対応を行った。また、外来Hブロックエリアや入退院・予約センターでは、待ち時間の負担軽減のため大型TVを設置した。

③地域連携機能の向上

地域医療連携部の機能充実のため、紹介患者の受け入れやCT、MRI等による検査の電話予約受付等の前方連携機能及び在宅や転院先との退院調整等の後方連携機能を強化し、地域医療機関等との連携を円滑に行った。

④ホームページほか広報の充実

病院ホームページを一部リニューアルしたほか、各診療科の治療実績や在院日数等の臨床指標（クリニカルインディケーター）の基礎情報にDPCデータを導入した。また、病院広報誌、入院案内等により、患者及び利用者への病院機能情報の積極的な提供を行った。

⑤診断書等の文書受付窓口の一元化

平成24年5月から診断書等の受付、書類処理から郵送、文書作成、問合せの電話対応等の業務を一元管理する文書専門窓口を本館 1 階総合受付に設置して、患者への診断書等の交付期間の短縮化と利便性の向上に努めた。

2) 医療安全の確保

①インシデント・医療事故報告システム

各部署からのインシデント報告は、3,152件（前年度比88件減）、医療事故は24件（前年度比2件減）であった。その中の代表的な16事例のインシデントについては、医療安全対策小委員会で改善策を審議した。審議内容は医療安全対策委員会で報告され、事故防止対策の院内周知を図った。

②院内暴力対策

平成22年度から、院内暴力対応指針の配付や院内暴力対応訓練等により医療現場における対応と周知を図っている。平成24年度は、同年6月に医療現場のチーフリーダーやスタッフを対象に、4回目となる「院内暴力発生時の対応訓練」及び「護身術講習会」を、警察の協力を得て実施した。また、クレーマー等による暴力の発生が予測される事例に関しては、その都度対処すると共に、医療現場の混乱を防ぐため関係者を集めて事前・事後に会議を開催するなどの対応を行った。

③医療安全相互ラウンド、入院患者持参薬鑑別システム及び患者誤認防止システム

日本私立医科大学協会の医療安全・感染防止相互ラウンドは、東京慈恵会医科大学附属病院との間で実施された。また、入院患者の持参薬を管理し、患者の服薬安全性や医療事故防止を図る入院患者持参薬鑑別システムは、電子カルテと連動しながら、平成24年6月から稼働している。注射処方に関する誤認防止システムは、平成22年1月から全病棟で稼働しており、輸血に関する病棟の患者誤認防止システム等は、平成25年度も引き続き、プログラム開発が検討されている。

④感染防止対策活動の強化、充実

院内感染防止を目的として平成22年度に設置された感染対策チーム（ICT）は、平成24年度には医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、事務職員からなる17名で構成され、日常的な院内感染対策業務、ICT会議（月2回の定例）の開催及び院内感染防止ラウンド（月2回、随時）を実施した。また、活動結果等については、月1回定例開催の院内感染対策委員会で報告及び周知された。

⑤感染防止対策の教育活動

病院に勤務する全職員を対象とする院内感染防止に関する教育講演会を2回（平成24年6月、平成25年2月）開催した。また、若手医師（研修医を含む）やその他関連職員を対象とする計10回の感染症診療ベーシックレクチャー及び入院・外来患者と来院者を対象と

するニコニコ感染予防教室を2回開催した。県内の医療機関とは、感染防止対策加算1届出病院との感染防止相互評価及び同加算2届出9病院との年6回の感染対策合同カンファレンスなどを開催した。

3) 患者と医療者のパートナーシップ強化

①インフォームド・コンセントの充実と徹底

患者・家族と医療者の相互の信頼関係を基盤とした医療の実践を目的に、「患者の権利・臨床倫理検討委員会」が中心となり、全職員を対象とした患者中心の医療を実践するための教育研修会を平成24年12月に開催した。

また、病院機能評価の一環として院内サーベイヤーによる定期的な部署訪問を実施し、ケアプロセスとしてのインフォームド・コンセントの実施及び入院診療計画書・退院指導計画書の適時作成と患者・家族への説明の状況などを評価し、徹底を図った。

②院内統一基準の共有化と院内外への情報提供

「金沢医科大学病院診療管理基準」を適宜見直し、診療現場に必要な各種ガイドラインの新規作成及び追加、訂正・削除を行ない、より実用性の高い院内統一基準として全職員に情報共有を図った。このほか、院内の診療情報や医療の質（クリニカルインディケーター等）情報の院内外への開示など、地域に開かれた医療機関としての役割を果たすべく、積極的な情報提供を行った。

4) 医療の高度化と質の向上

①先進医療の届け出増加

平成23年度末の先進医療の届出件数は6件であったが、平成24年4月の診療報酬改定で2件が保険収載、1件が対象外となり届出件数は3件となった。8月には「術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法」の届出が承認され、平成24年度末の先進医療の届出件数は4件となった。

②医療安全管理体制の強化

診療管理基準、医療安全対策マニュアル、感染症対策マニュアル、災害対策マニュアル、院内暴力対応マニュアル等の冊子を院内各部署に常備し、公的機関からの指導や現場の診療方針、ガイドラインの変更等に併せて随時内容の一部を改訂した。また、医療相談や暴力行為（モンスター・ペイシエント）に対応するため、継続して専門知識を有した専任の保安担当責任者を院内に配置し、保安管理体制を維持・強化した。

③地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

地域がん診療連携拠点病院の責務として、担当エリアの地域中核病院医師等との定期的な合同カンファレンスの開催、医療従事者へのがん診療情報の提供や研修教育の実施などの体制構築に取り組んだ。地域医療機関との連携体制をより強化、推進し、がん地域連携パスとして24件の実績があった。また、院内においては、院内がん登録システムのケースファインディング機能を利用した他疾患の登録機能の拡充により、医師の登録負担が少ないシステムを構築した。

④周産期医療体制の充実

新生児集中治療センターは、平成23年8月に新生児特定集中治療室管理料（NICU6床）の施設基準の届出を行った。さらに、平成24年度は看護師を増員配置して、6月に新生児治療回復室入院医療管理料（GCU7床）施設基準の届出を行い、受理された。これにより、地域周産期母子医療センターとして、高度な周産期医療体制の充実が図られた。

⑤ドック機能の充実

別館8階及び7階において、ドック機能の集約化及び簡易検査・各種指導機能の集中配備による効率的な検診体制を整備した。平成24年度の実績は、宿泊ドック906件、日帰りドックは2,253件であった。また、平成24年10月から、エイジングケア（加齢対策）としてエイジングドック（受診件数5件）を開始した。

⑥医療の標準化、効率化

クリニカルパスの保有件数は、平成24年度は169件となり、ほぼ全診療科で保有、実施されるようになった。また、医療の効率化と患者負担の軽減、在院日数短縮などエビデンスに基づいた医療の標準化、効率化を図った。

⑦情報開示による医療の質の向上

第5次医療法改正で義務化された患者向け「医療機能情報提供制度」による病院機能情報の開示を継続するとともに、病院ホームページにおいて、臨床指標（クリニカルインディケーター）による診療アウトカムの評価や患者満足度調査の結果などを継続して、公開した。

⑧電子カルテの全面的な更新

平成24年度には、次期電子カルテシステムの方向性として、現行の電子カルテシステムを継続利用する方針で承認された。平成25年度には新しいOS環境へのシステム基盤の整備を行い、平成26年度には新しい環境の下、現場ニーズにあった投資効果のある機能の追加を行う計画である。

5）地域連携・地域貢献

①石川県が策定する「4疾患5事業」への全面的な協力体制の構築

石川県が策定する「医療計画」における「4疾患5事業」の二次医療圏での展開に全面的な協力体制を構築した。このため、臨床研修においても研修協力病院を中心に地域医療機関との地域連携パスの開発（がん、心疾患、股関節、脳卒中、糖尿病等）による連携診療の実施や当院医師、地域医療連携部の専任看護師、医療ソーシャルワーカー、他医療機関医師等との合同カンファレンスの開催など、従来の患者の紹介・逆紹介関係から進化した診療連携関係を構築した。また、専任看護師、医療ソーシャルワーカーによる退院支援を活性化し、病床利用率の向上を図った。平成24年度には退院支援計画書までの調整実績は57件、退院時カンファレンスにおいては55件の実績があった。

②患者紹介・逆紹介の状況

平成24年度の新患・初診の紹介患者数は8,866名（前年度8,780名）であり再診患者を含めると11,956名（前年度11,893名）であった。前年度に比べ、新患・初診の紹介患者数は

86名増、再診患者を含めた紹介患者数は63名増となった。また、平成24年度の当院からの逆紹介患者数は8,365名（前年度8,103名）で前年度に比べ、262名増加となった。

③地域医療への貢献

- ・医療安全、感染防止、医療倫理、接遇対応等の教育研修について、地域医療機関に門戸を開くとともに、がん診療連携拠点病院としてがん医療、緩和ケア医療等の研修機会の提供と情報提供体制を充実した。
- ・集学的医療部の総合診療センターにおいて、生活習慣病の予防対策を目的とした患者向け運動教室を毎月2～3回開催し、毎回約30名前後の地域住民が参加した。また、総合診療センターが中心となり、かなざわ・まち博におけるメタボ改善プログラムの実施や、内灘ロマンチックウォークへの協賛として健康づくりブースを出展し、健康相談や血圧測定等を行った。
- ・公立穴水総合病院とのインターネットTV会議システムによる遠隔診療事業について、集学的がん治療センターを中心に引き続き連携、協力を行った。
- ・平成22年度から北陸大学薬学部の実習生の受け入れが行われているが、引き続き薬剤部をはじめとする院内関係部署と調整を図りながら連携、協力を行った。
- ・地域住民に対しては引き続き、市民公開講座の開催や地域保健医療活動への医師等専門職の派遣を通して積極的に貢献した。
- ・平成23年度から行っている石川県自殺者未遂支援対策事業について、関係部署と調整しながら連携、協力を行い、院内で講演会を開催し51名の参加者があった。

6) 教育研修

①初期臨床研修プログラムの策定と円滑な実施

現在研修中の平成23年度臨床研修プログラム（研修医17名）、平成24年度臨床研修プログラム（研修医36名）及び平成24年度歯科医師臨床研修プログラム（研修医2名）を実施した。また、平成25年度からの臨床研修プログラムについて、高度医療連携プログラム（定員32名）、地域医療連携プログラム（定員10名）、外科系プログラム（定員8名）、産婦人科専門プログラム（定員2名）、小児科専門プログラム（定員2名）を設け、総定員54名での実施を申請し、厚生労働省に受理された。

②初期臨床研修指導医の養成

厚生労働省の臨床研修審査専門官を招聘して、「指導医養成のためのワークショップ」を開催し、29名（うち協力病院10名）の指導医を養成した。

③総合的な職員研修プログラムの実施

医療の質の向上と医療安全体制の強化推進のため、診療管理基準、医療安全対策、感染症対策の各マニュアルなど病院運営や診療活動における基本マニュアルの説明研修等を継続的に実施した。

また、職員ワークショップ（宿泊研修）は、問題意識の共有化、医師、看護師、コメディカル、事務職員による多職種間における人的交流、モチベーションの向上を図るための効果的な研修機会であり、平成24年度は11月に35名の参加者で開催した。更に、患者の権利、臨床倫理、接遇等に関する教育研修についても継続して開催した。

7) 人材確保と就業環境の改善

①看護師確保対策

急性期病院として看護師の確保を喫緊の課題とし、法人部門と連携して、経済的支援を目的とする制度等を設立するほか、各種の人材確保対策を講じ、看護体制確立を図った。(17ページ参照)

②臨床研修医の確保

平成25年度臨床研修プログラム応募者の面接試験とマッチングを実施した。臨床研修医マッチング者数は43名(マッチングに不参加の者も含む)、臨床研修歯科医マッチング者数は2名(マッチングに不参加の者も含む)であった。卒業試験及び国家試験等の結果、平成25年度に本学病院で臨床研修を行う医科研修医は28名、歯科研修医は2名となった。

また、研修医向け金沢医科大学レジデントハウスが平成24年10月末に竣工し、平成25年4月1日からの入居数は1年次及び2年次研修医合わせて42名となっている。

③臨床研修合同説明会への参加と研修案内

- ・初期臨床研修医の確保のため、学内説明会、合同セミナーに参加し、東京会場及び金沢会場にブース展示を行った。また、「明日の石川の医療を担う若手医師の集い(石川県主催)」に当院のブース展示を行うとともに、研修プログラム案内を作成し、在学生とその父母へ配付した。
- ・臨床研修医募集に係る医学部5年生を対象とした診療科合同説明会及び交流会を開催し、各診療科の医師と学生34名が参加した。

④後期臨床研修への取り組み

平成24年度の初期臨床研修修了者は、医科研修医17名、歯科研修医2名(うち1名他院中絶受入7月修了)の合計19名であり、引き続き本学病院にて後期研修を行う医科研修医は14名となった。また、平成25年度から研修2年次からの大学院入学が可能となることにより、従来の研修修了者12名(14名中)に加え、2年次となる16名(36名中)が大学院に入学する。

⑤専門・認定看護師の養成

高度な診療体制の維持・向上に必要とされる専門看護師、認定看護師等コメディカル部門の資格者養成を計画的に行い、看護や診療レベルの向上を目指すとともに、専門資格取得機会の提供と経済的支援の制度化による看護師の離職防止対策に努めた。平成24年度は、2名が認定看護師研修を受講した。本学病院には現在、専門看護師2名、認定看護師15名、計17名が在職している。

⑥就業環境改善の取り組み

病院長とコメディカルスタッフとの定期的なミーティングを実施して、各部署における課題や問題点等に関して相互のコミュニケーションを図り、就業環境の改善に努めた。また、医師、看護師の業務負担軽減の取り組みの一環として、医療クラークを5病棟に試行的に配置した。

8) 医療機器の整備

①医療機器の整備

医療機器の整備として、更新機器45件、追加機器21件、新規機器13件、計79件を整備した。

②情報システムの整備

老朽化等の対策を目的に、電子カルテシステムの部門インターフェイスサーバー、自動ネットワーク設定（DHCP）サーバーの更新を行ったほか、検体検査システム、シネ画像ファイリングシステムの更新整備を実施した。

9) 施設設備整備

- ・解体工事が始まる CT 棟、RI 棟の既存施設の移転を実施し、グランドデザイン第1次5カ年計画（医学教育棟（病院用途）、エントランス棟）をスケジュールどおりに推進した。
- ・金沢医科大学レジデントハウスが平成24年10月末に竣工した。これに伴い、研修医へのガイダンスや管理運用に関する規程等の整備を行うとともに、教育研修エリアとなるカンファレンスルームや談話室の利用についてもルールを定め、12月から運用を開始した。
- ・入院患者の療養環境の向上のために個室病室にインターネット環境整備工事や病室トイレドアの改修工事、特別病室のトイレ改修工事（ウォシュレット）を行ったほか、医療機器導入に伴う付帯工事等を実施した。

10) 収支改善

①7対1看護体制の通年確保及び特定集中室管理加算等の取得

- ・特定機能病院入院基本料（7対1看護体制）は、病棟夜勤看護師の不足により平成24年1月から1病棟を休床した状態で、通年確保した。
- ・特定集中治療室管理料（ハートセンター）は8床で運用しているが、広範囲熱傷特定集中治療管理料の追加届出も行い、継続運用している。
- ・平成23年6月に急性期看護補助体制加算、同年9月に新生児特定集中治療室管理料（6床）の施設基準の届出を行い、継続運用している。
- ・新生児治療回復室入院医療管理料（GCU）の施設基準の届出を平成24年6月に行い、運用を開始した。
- ・小児科病棟はGCUの届出に伴い、平成24年6月からは小児医療管理料2（44→37床）の届出変更を行い、継続運用している。

②患者誘致対策

PET-CT、リニアック、64列マルチスライスCT、MR-CT等の整備済み新鋭機器の利用について地域医療連携部が中心となって地域医療懇談会等を通してPRし、電話での検査予約受付など積極的な患者誘致に繋げた。また、院内がん登録、がん相談支援センターの充実、チームによる緩和ケア医療の実施など地域がん診療連携拠点病院としての条件整備を継続して行い、収入確保に努めた。併せて、担当エリアの地域中核病院とのがん情報の提供と共有及び地域連携パスによる患者交流など、拠点病院としての役割を積極的に果たすことにより、地域医療機関からの信頼と評価を高めて紹介患者の招致を図った。

③集学的医療部の再編成

集学的医療部の組織体制を見直し、がん治療、生活習慣病などの総合診療内科、遺伝子医療、睡眠医学について、講座との位置関係を明確にして、それぞれの機能の充実を図り患者の増加に努めた。

④収支改善に向けた病院長ヒアリングの実施

病院長と各診療科長、医局長とのヒアリングを前年度に引き続き実施した。ヒアリングでは、各診療科から平成 24 年度の状況報告、翌年度の数値目標の提示、平均在院日数、部科長会等への出欠状況、診療実績の向上に向けた協議等を行った。

⑤救急患者の受け入れ増加

入院患者の増加を図るため、救急搬送患者は原則受け入れる体制を引き続き周知するとともに、病院部科長会、病院連絡会等において病院長から各診療科に対して、救急医療センターからのオンコールに対する協力要請を行った。また、別館 5 階病床の有効利用についての協議を行った。

⑥ベッドコントロールの効率的な運用

ベッドコントロールの効率的な運用により病床利用率の向上を図るため、全ての診療科が利用できる共用病床の設置について検討を行った。また、時間外救急患者の 1 泊入院に対応するため、救命救急科の割当病床を増やすほか、各診療科の病床稼働率等をもとに科別割当病床数の見直しを行った。

⑦DPCベンチマーク、クリニカルパスによる医療の効率化

DPC 分析のコスト管理システム（メディアローズ）を用い、コスト削減と効率的な診療情報を各診療科に提供し周知を行った。また、バリエーション分析の適正化のため、クリニカルパスのシステム改良を行った。

⑧ジェネリック薬品の選択的採用拡大と診療材料の標準化

前年度に引き続き、ジェネリック薬品の使用について、薬事委員会において選択的採用の拡大、検討を進めた。また、診療材料については、医療安全、感染対策、コスト削減の観点から業務改善委員会で規格統一による標準化を進めた。

⑨診療関係部門の業務改善と省力化

業務改善検討委員会が中心となり、診療部門の業務改善と診療材料等の経費削減に努めた。省エネ活動については、本学の省エネルギー推進委員会の基本方針に沿って、病院内照明や空調を制御するなど病院として可能な範囲で取り組んだ。また、医療機器の適切な取り扱いについて院内に周知し、修繕費の節減に努めた。

1 1) 組織運営

①病院機能の自己点検・評価（継続的な取り組み）

平成24年1月の認定期間満了に伴い、平成23年11月に病院機能評価を受審し、平成24年1月付で更新認定（「病院機能評価（審査体制区分4 Ver6.0）」）を受けた。受審に取り組むなかで達成された改善レベルを維持し、継続的な改善を進めるため、引き続き院内サーベイを実施して病院機能の維持向上に努めるとともに、次回更新のための準備作業とした。

②21世紀集学的医療センターの再編成

平成 24 年 4 月 1 日に、従前の「21 世紀集学的医療センター」を「集学的医療部」に組織替えを行い、「集学的がん治療センター」、「総合診療センター」、「遺伝子医療センター」、「睡眠医学センター」の 4 センターに再編成した。

③センター構想と診療科の新設

- ・関連する複数の診療科を統合した形で臓器・機能別センターを設置して、患者中心の医療の実現と地域連携機能の強化を図り、患者紹介の利便性を向上させるとともに、臓器・機能別に高度な医療を提供する体制の整備を行った。（心臓血管センター、消化器センター、耳鼻咽喉・頭頸部甲状腺センター）
- ・現在の放射線科の診療内容は、診断を中心とした診療と悪性腫瘍の治療を中心とした診療に大別され、また放射線治療医の教育、育成を充実させることから現在の放射線科から分離独立した診療科として、新たに放射線治療科を標榜することとした。

1 2）平成24年度経営管理指標の達成状況

平成24年度数値目標に対しては、平均在院日数、新入院患者数、外来患者数については達成できたが、その他の項目については未達成となった。

前年度診療実績との比較では、3億4,088万円（1.8%）の増収となった。

平成24年度経営管理指標の達成状況

		H24 年度目標	H24 年度実績	目標達成度	H23 年度実績
平均在院日数	一 般	18.5 日以内	17.2 日	-1.3 日（達成）	18.2 日
	全 体	19.0 日以内	17.7 日	-1.3 日（達成）	18.8 日
新入院患者数／日		35.0 人以上	35.5 人	+0.5 人（達成）	34.5 人
入院患者数／日		685.5 人以上	664.7 人	-20.8 人（未達成）	685.9 人
病床稼働率		87.0%以上	84.4%	-2.6%（未達成）	84.2%
外来患者数／日		1,150 人以上	1,150.4 人	+0.4 人（達成）	1,146.9 人
新患患者数／日		27.0 人以上	25.5 人	-1.5 人（未達成）	27.0 人
患者紹介率（医療法）		60%以上	57.9%	-2.1%（未達成）	56.8%
院外処方せん発行率		87%以上	87.6%	+0.6%（達成）	87.1%

患者数関連指標の過去 5 年間の推移状況

年 度	病床数 (床)		患 者 数 (人/1 日平均)				平均在院 日数 (日)
	許可	稼動	外来患者数	新患者数	在院患者数	新入院患者数	
平成 20 年度	892	840	1,122.7	28.3	658.3	33.6	19.6
平成 21 年度	835	823	1,127.9	28.9	657.1	34.6	19.0
平成 22 年度	835	823	1,137.9	27.2	655.3	35.0	18.7
平成 23 年度	835	788	1,146.9	27.0	651.1	34.5	18.8
平成 24 年度	835	788	1,150.4	25.5	629.0	35.5	17.7

診療実績関連指標の過去 5 年間の推移状況

年 度	診 療 実 績				
	入院収入 (百万円)	外来収入 (百万円)	合 計 (百万円)	入院単価 (円)	外来単価 (円)
平成 20 年度	12,830	4,185	17,015	50,801	12,808
平成 21 年度	13,043	4,479	17,522	51,662	13,646
平成 22 年度	13,658	4,628	18,286	54,219	13,880
平成 23 年度	14,162	4,710	18,872	56,410	14,016
平成 24 年度	14,433	4,780	19,213	59,485	14,278

大型機器の利用実績

	H24 年度実績	H23 年度実績	対前年度増減	当 初 計 画 / 年
放射線治療システム Varian	439 人	453 人	-14 人	288 人
PET-CT システム	2,071 人	2,028 人	43 人	1,440 人
FPD 搭載型 X 線 TV 装置	2,767 件	3,024 件	-257 件	1,928 件
FPD 搭載型 X 線 TV 装置	2,103 件	540 件	1,563 件	2,640 件
密封小線源治療装置	31 人	34 人	-3 人	30 人
X 線 CT 装置 (64 列)	16,126 件	14,986 件	1,140 件	9,984 件
X 線 CT 装置 (2 管球式)	14,418 件	12,689 件	1,729 件	11,369 件
IVR-CT/アンギオシステム	1,349 件	1,377 件	-28 件	545 件
心血管撮影装置 AXIOM	2,840 件	2,535 件	305 件	900 件
MRI 装置 MAGNETOM3.0T	8,301 件	7,625 件	676 件	3,485 件
MRI 装置 MAGNETOM1.5T	8,501 件	7,502 件	999 件	3,700 件
MRI 装置 MAGNETOM1.5T	1,889 件	3,123 件	-1,234 件	—
フルデジタル乳房撮影装置	2,517 件	2,466 件	51 件	1,389 件
心臓電気生理学的検査 3 次元 画像システム	102 件	80 件	22 件	30 件

手術実績

(単位:件)

診療科名	平成 24 年度	平成 23 年度	増 減
形成外科	656	743	-87
小児外科	269	269	0
胸部心臓血管外科	385	349	+36
脳神経外科	209	216	-7
泌尿器科	254	212	+42
耳鼻咽喉科	298	308	-10
一般・消化器外科	661	708	-47
整形外科	902	807	+95
産科婦人科	221	219	+2
眼科	1,606	1,713	-107
呼吸器外科	109	117	-8
歯科口腔科	37	29	+8
麻酔科	30	34	-4
血液・リウマチ膠原病科	4	6	-2
救命救急科	0	0	0
皮膚科	8	6	+2
循環器内科	434	408	+26
消化器内科	0	0	0
呼吸器内科	0	0	0
神経科精神科	10	39	-29
小児科	0	1	-1
内視鏡科	35	21	+14
合 計	6,128	6,205	-77
うち全麻件数	3,321	3,233	+88
全麻率	54.2%	52.1%	+2.1%

※循環器内科以外は、中央手術部における手術件数。循環器内科は、心臓血管内カテーテル治療の件数。

4. 金沢医科大学氷見市民病院

1) 病院事業

①新病院開院一周年記念事業

平成 23 年 9 月 1 日に開院した新病院の一周年を迎え、新病院開院一周年記念事業が下記のとおり実施された。

夏休み親子ふれあい医療フェスティバル

日 時：平成 24 年 8 月 5 日（日） 10：00～15：00

場 所：金沢医科大学氷見市民病院

参加者：100 名（小学生 47 名、中学生 14 名、高校生 1 名、保護者 38 名）

新病院一周年記念講演会

日 時：平成 24 年 8 月 25 日（土） 13：30～15：00

場 所：金沢医科大学氷見市民病院 6 階多目的ホール

講 師：今 陽子（歌手・俳優）

演 題：「楽しく生きれば元気になれる」

参加者：250 名（患者・職員・一般市民）



夏休み親子ふれあい医療フェスティバル



新病院一周年記念講演会

②金沢医科大学創立 40 周年記念事業氷見市民病院関連事業

金沢医科大学創立 40 周年を記念し、氷見市民病院では以下の事業を展開した。

・氷見市民病院見学

平成 24 年 10 月 27 日（土）記念式典後に来賓・関係者等（16 名）が参加するなか、金沢医科大学氷見市民病院の見学会が実施された。

・「金沢医科大学氷見市民病院の挑戦」記録本の発刊

金沢医科大学が氷見市民病院の病院事業指定管理者に決定する経緯からこれまでの 5 年間の軌跡を「金沢医科大学氷見市民病院の挑戦」（副題：「地域医療」が元気になった！）のタイトルで、記録本として発刊した。

2）診療実績の状況

①医療収入

平成 24 年度の医療収入は 50 億 6,800 万円となり、前年度に比べ 4 億 6,800 万円（+10.2%）の増加となったが、当初目標に対しては 1 億 4,500 万円の減少となった。入院の医療収入は、前年度に比べ 4 億 3,000 万円（+15.2%）の増加となった。外来の医療収入は、前年度に比べ 3,000 万円（+1.7%）の増加となった。

収入増加の要因は、入院・外来患者数の増加（対前年比：入院患者数+6.2%、外来患者数+1.5%）、手術件数の増加（対前年比 76 件増）、平成 24 年 4 月の診療報酬改正による入院診療単価の増（約 4%）及び 7 対 1 看護施設基準の取得等による点数の増加によるものである。

②患者数

入院の 1 日平均患者数は 188 人／日となり、前年度に比べ 10.9 人／日の増加となった。外来の 1 日平均患者数は 517.9 人／日となり、前年度に比べ 7.5 人／日の増加となった。新入院患者数は、3,167 人となり前年度に比べ 129 人の増加となった。1 日あたりの新入院患者数は 8.7 人／日で、前年度に比べ 0.4 人／日の増加となった。

③診療単価

入院診療単価は 47,182 円となり、前年度に比べ 3,574 円（+8.2%）の増加となった。外来診療単価は 11,912 円となり、前年度に比べ 9 円（+0.1%）の増加となった。入院診療単価の内訳では一般診療は 48,888 円、回復期リハビリテーション病棟は 37,922 円となった。

④平均在院日数

入院平均在院日数は20.7日となり、前年度に比べ0.3日長くなったが、回復期リハビリテーション病棟を除く一般病棟では17.4日となり、対前年度比では2.5日の短縮となった。一般病床の在院日数短縮（18日以内）は7対1看護基準の算定要件である。

⑤手術実績

年間手術件数は下表のとおり、1,041件となり、前年度に比べ76件（+7.8%）増加した。全身麻酔の件数は、544件となり、前年度に比べ43件（+8.6%）増加となった。

手術実績

（単位：件）

診療科名		H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
外科	一般・消化器外科	257	272	263	264	254
	胸部血管心臓外科	90	86	80	91	116
麻酔科		0	0	0	0	0
形成外科		85	26	14	10	9
整形外科		285	288	248	249	274
脳神経外科		18	38	43	40	41
泌尿器科		0	3	2	24	50
産婦人科		0	13	27	21	6
眼科		395	419	138	161	173
耳鼻いんこう科		0	6	5	15	19
歯科口腔外科		24	11	18	21	13
皮膚科		0	29	39	18	18
循環器内科※		0	9	13	47	68
総合診療科		0	0	1	4	0
合計		1,154	1,200	891	965	1,041
手術件数（件／月）		96.2	100.0	74.3	80.4	86.0
うち全麻件数		439	423	450	501	544

※循環器内科以外は、手術部における手術件数。循環器内科は、心臓血管内カテーテル治療の件数を含む。

3）職員の採用状況

①常勤医師の採用

平成24年度は放射線科1名、総合診療科1名（自治医科大学）の医師が交代し、消化器内科、一般消化器外科にそれぞれ常勤医1名が増員され、平成24年4月の常勤医師数は計47名となった。常勤医師の増加により、救急患者の受け入れ体制が強化され、氷見市消防本部による二次救急患者搬送も90%以上が搬送されている。

②初期臨床研修医の採用

平成24年度は、初期臨床研修医4名が採用された。これにより平成24年度初期臨床研修医数は1年目4名、2年目4名の計8名となった。

③看護師等技術系職員の採用

平成 24 年度は、7 対 1 看護施設基準申請を目指し 20 名の看護師を採用した。また、看護師以外では、放射線技師 2 名、臨床工学技士 3 名、作業療法士 1 名、介護員 1 名の計 7 名が採用された。

4) 診療体制の整備

①急性期病棟と回復期リハビリテーション病棟の連携促進

新病院の稼働により、回復期リハビリテーション病棟 49 床が設置され、平成 24 年 1 月から 365 日リハビリ体制の運用を開始した。当該病床の稼働は患者数の状況に応じて、段階的に病床を拡大させる方針とし、当初は 35 名までの患者受け入れ体制とし、患者 1 人 1 日あたり 6 単位から 9 単位（1 単位 20 分）までのリハビリを行う体制とした。平成 24 年度の稼働実績は、1 日平均患者数は 28.0 人／日（病床利用率 57.1%）、診療単価 37,922 円、収入実績額は 3 億 8,640 万円、患者 1 人 1 日あたりのリハビリ実施単位数は約 7 単位、在宅復帰率は 94.5%であった。次年度は稼働病床数を拡大し、40 床とする計画である。

②健康管理センターの健診等受入れ体制強化

平成 23 年 9 月の新病院稼働に伴い、健康管理センターの本格的な運用を開始した。平成 24 年度は、受診者増を目的として①健診システムの導入、②氷見市はじめ各企業・団体に対する健診・ドックの案内を積極的に行い、各企業等と健診・ドックに関する契約を締結、③ドック内容の見直しを行い、氷見の民宿を利用した「氷見民宿 1 泊ドック」を開始した。

その結果、平成 24 年度実績は、人間ドック実施件数は 679 件（前年度 286 件）、健診・がん検診・特定保健指導・予防接種等件数は 6,262 件（前年度 5,181 件）、実績総額は 4,700 万円（前年度 3,400 万円）と増加した。

③心疾患診療体制の充実

平成 23 年 9 月の新病院稼働に伴う血管撮影室の整備と循環器内科医師の増員により、心臓カテーテル法及びステント留置等による検査・治療体制が充実整備された。平成 24 年度の心臓カテーテル法及びステント留置等による検査・治療件数は、252 件（前年度 171 件）と増加した。

④クリニカルパスの拡充及びクリニカル連携パスの実施

これまで病院内に登録されているクリニカルパスは約 60 種類であるが、平成 24 年度に活用されているクリニカルパスは 35 種類であり、使用延件数は 441 件であった。平成 25 年度は院内クリニカルパス大会等を開催しながら、精度向上を図り活用件数を増加させる予定である。また、クリニカル連携パスは、脳卒中、大腿骨頸部骨折、認知症等の運用について地域医療機関と協議中であり、早期に実施する計画である。

⑤時間外救急体制の状況

時間外救急患者の延数は 5,814 名（前年度 5,822 名）となり、前年度と比べ微減となった。このうち、救急車による搬送の患者数は 822 名となり、前年度より 25 名（+3%）増加し、入院患者数も 771 名となり、前年度に比べ 162 名（+26.6%）の増加となった。全救急患者に対する入院率は 13.3%、氷見市消防本部の二次救急までの当院への搬送率は約 90%であった。

救急患者の受け入れ状況

	救急患者 延数（人）	1 日当り （人／日）	うち救急車 搬送患者（人）	1 日当り （人／日）	うち入院 患者数（人）	入院率 （％）
H20 年度	6,005	16.5	635	1.7	574	9.6
H21 年度	5,931	16.2	704	1.9	648	10.9
H22 年度	5,821	15.9	812	2.2	688	11.8
H23 年度	5,822	15.9	797	2.2	609	10.5
H24 年度	5,814	15.9	822	2.3	771	13.3

5) 地域医療連携と地域貢献の推進

①第 5 回地域医療懇談会の実施

平成 24 年 12 月 8 日（土）に氷見市「海あかり」で実施し、約 50 名が参加した。

②地域医療機関との連携の推進

地域医療連携室を中心とした、患者紹介・逆紹介、紹介患者にかかる返書の徹底等、地域医療連携を積極的に実施し、平成 24 年度の患者紹介率は 23%、逆紹介率は 12.3%であった。今後は、現在建設中の研修棟に氷見市医師会事務局が入居予定であり、更に地域医療連携の推進を図るほか、近隣の医師会や医療機関との医療連携を進める計画である。

③病院診療機能情報誌の発行

病院の診療科及び医師の紹介を中心とした診療機能情報誌を平成 24 年 11 月に発行し、近隣医療機関等に配布した。

④地域連携体制の推進

地域医療連携室を中心とした、患者紹介・逆紹介、紹介患者にかかる返書の徹底等地域医療連携を積極的に実施し、患者紹介率は平成 22 年度の 19.7%から平成 23 年度は 22.7%に上昇した。しかし、逆紹介率は 13%から 11.8%に減少した。今後はさらに地域医師会、医療機関との医療連携を進めるため、地域医療連携業務の充実と診療機能情報誌の発行を計画している。

6) 教育・研修体制の強化

新病院の稼働により、旧病院の狭い研修医室から整備された研修医室へと研修環境の整備が行われた。また、研修医の指導体制も強化され、臨床研修委員会を中心に初期臨床研修医に対する研修プログラムの作成等の整備が行われている。また、病院職員については、医療サービス向上委員会と連携して病院職員全体及び各部門の教育研修の推進する部署として、教育研修・職員支援室を設置し、以下の事業を展開した。新人看護師を含む全職員の相談等に対応する部署としても機能しており、平成 24 年度における職員からの相談件数は 473 件であった。

- ・教育研修・職員支援室の設置（平成 24 年 4 月）
- ・平成 24 年度各部門教育研修計画の策定（平成 24 年 5 月）
- ・職員マナーブックの発行（平成 24 年 9 月）
- ・病院職員接遇講演会の開催（平成 24 年 10 月）

7) 収支改善への対応

平成 24 年度の診療実績は、50 億 6,800 万円となり、対前年度では 4 億 6,800 万円の増加となった。国からの補助金等医業外収入は 3 億 9,900 万円で、収入合計は 54 億 6,700 万円と

なった。一方、支出合計は 53 億 7,200 万円であり、病院収支は 9,500 万円の収入超過となった。平成 24 年度の収支改善への取り組みとして、①平成 24 年 10 月からの 7 対 1 看護施設基準の取得、②地域医師会及び開業医との医療連携の推進、③病院広報誌及び診療機能情報誌の発行による病院 PR、④院外処方箋の発行率アップによる薬品費の経費削減などを実施した。

8) 病院管理運営

①氷見市との病院管理運営に関する基本協定、細目協定の見直し協議

金沢医科大学が平成 20 年 4 月から病院事業指定管理者として氷見市民病院の管理運営を担当しているが、平成 19 年 11 月 22 日に締結された病院管理運営に関する氷見市との基本協定に基づき、5 年毎の協定内容の見直し協議が実施された。同協定の見直し協議に大学側から多くの項目の改正提案を行ったが、氷見市の財政上の問題もあり、一部改正のみで大半が継続協議事項となった。

②日本医療機能評価機構の病院機能評価受審準備

日本医療機能評価機構による病院機能評価を平成 26 年 2 月に受審する予定で、受審にかかる院内のキックオフ大会を平成 24 年 10 月 18 日に開催し、院内各部門での準備を開始した。

9) 病院将来計画の策定（付属施設等の設置）

①研修棟増築工事

氷見市との協議により病院研修棟増築計画が決定し、平成 25 年度事業として実施されることとなった。平成 25 年 2 月には氷見市入札により建築業者が決定した。概要は以下のとおりである。

施設概要：医師研究室スペースの増設、臨床研修医の研修室増設や看護学校等の実習生等の教育施設整備、医師・看護師等職員の図書室の設置、合同カンファレンス室の設置、氷見市医師会事務局の入居

建物概要：3 階建て、（1 階は救急車進入等通路、2・3 階が居室）

建設日程：平成 25 年 4 月工事開始 同年 11 月完成の予定

②正面玄関風除室増築工事

平成 24 年 11 月に病院玄関の風の吹き込み対策として、風除室増設工事を実施した。

10) 医療機器等の整備

大学購入分は、9 件で 600 万円となった。また、氷見市民病院の管理運営に関する基本協定第 31 条の指定管理者負担金に該当する氷見市購入分の医療機器は、28 件で 2 億 9,900 万円となった。

平成 24 年度医療機器の稼働実績

部 署	品名	整備年度	数 量	稼働件数 (件)
内分泌代謝科	体成分分析装置	H20 年度	1	4
眼科	3 次元眼底像撮影装置	〃	1	949
中央臨床検査部	自動グリコヘモクロビン分析装置	〃	1	18,299
一般・消化器外科	超音波診断装置	H21 年度	1	212
皮膚科	赤外線照射装置	〃	1	349
	近赤外線治療装置	〃	1	43
眼科	眼内レーザー光凝固装置	〃	1	25
手術部 (胸部心臓血管外科)	自己血回収装置	H22 年度	1	10
	人工心肺装置	〃	1	23
	補助循環装置	〃	1	0
中央臨床検査部	全自動輸血検査システム	〃	1	4,096
	血液ガス分析装置	〃	1	1,748
中央放射線部	CT スキャナー装置	H23 年度	1	9,989
	血管撮影装置	〃	1	359
	X 線一般撮影装置	〃	2	22,359
中央臨床検査部	生化学自動分析装置	〃	1	796,289
内視鏡センター	電子内視鏡システム	〃	1	1,140
	高周波手術器 V1300D	〃	1	44
中央放射線部	X 線透視撮影装置	H24 年度	1	1,038
中央臨床検査部	心電図ファイリングシステム	〃	1	6,425
循環器内科	超音波診断装置	〃	1	518
整形外科	超音波診断装置	〃	1	178
内視鏡センター	内視鏡業務支援システム	〃	1	3,434

1 1) 経営指標

平成 24 年度の経営管理指標の実績は以下のとおりである。

平成 24 年度経営管理指標の達成状況

指 標	平成 24 年度 (実績)	平成 24 年度 (目標)	目標差	平成 23 年度
許可病床数 (床)	250	250	—	250
稼働病床数 (床)	250	250	—	250
平均在院日数 (一般病棟) (日/人)	17.4	18.0	-0.6	19.9
新入院患者数 (人/日)	8.7	10.0	-1.3	8.3
入院患者数 (人/日)	188	201	-13	177
外来患者数 (人/日)	518	515	+3	512
入院診療単価 (円)	47,182	46,060	+1,122	43,608
外来診療単価 (円)	11,912	12,200	-288	11,903
実績額 (百万円)	5,068	5,213	-145	4,600

12) 職員数

職員数の推移は次のとおり。

(単位：人)

職種名	平成 24 年 4 月 1 日現在			平成 25 年 4 月 1 日現在		
	常勤	パート	計	常勤	パート	計
医師	38	63	101	39	58	97
歯科医師	1		1	1		1
臨床研修医	8		8	5		5
薬剤師	10		10	10		10
助産師	3		3	3		3
看護師	176	18	194	191	16	207
准看護師	20	3	23	17	3	20
補助員	33	3	36	31	5	36
栄養士	0		0	0		0
管理栄養士	3	1	4	3	1	4
放射線技師	12		12	13		13
理学療法士 (PT)	23		23	23		23
作業療法士 (OT)	10		10	11		11
臨床工学技士	6		6	6		6
言語聴覚士	3		3	2		2
視能訓練士	1		1	1		1
歯科衛生士	2		2	2		2
臨床検査技師	14	1	15	15	1	16
その他の技術員	5		5	5		5
ソーシャルワーカー	2		2	2		2
技能員	1		1	1		1
事務職	34	4	38	35	4	39
合計	405	93	498	416	88	504

5. 能登北部地域医療研究所

石川県の地域医療再生計画による寄附講座「総合医療学（石川県）」では、能登北部地域医療研究所（公立穴水総合病院 5 階）を教育研修センターの拠点として位置付け、医学部学生、看護学部学生、初期臨床研修医、後期臨床研修医を積極的に受け入れ、公立穴水総合病院、介護老人保健施設あゆみの里、能登北部医師会、金沢大学、富山大学等と協力し、熱心な指導を行った。地域医療で活躍する医師を育てるための各種プログラムを整備し、平成 24 年度は、金沢医科大学の医学部第 1 学年の早期臨床体験実習、第 6 学年の臨床実習のほか、本学病院及び氷見市民病院の研修医、東大病院や大阪市総合医療センターの研修医、バーモント大学及びマーサ大学の医学生等 40 名以上が地域医療をここで学んだ。

(単位：人)

	研 修 医						医 学 生				受入合計
	金沢大病院	氷見市民病院	東大病院	大阪医大	その他	計	金沢医科大	マーサ大	バーモント大	計	
平成 22 年度	1					1		2		2	3
平成 23 年度	4	2	3		1	10	16	2		18	28
平成 24 年度	3	4	3	6	5	21	15	3	3	21	42

Ⅲ. 財務の概要

1. 平成 24 年度決算の概要

平成 24 年度は、創立 40 周年を迎え 10 月には記念式典を挙行し、記念事業の一環であるレジデントハウスが完成し、更に医学教育棟建設工事にも着手した。

教育・研究面では、国の補助金を得て研究施設及び研究装置設備を整備し、更に、若手研究者らを対象とする特別研究推進事業を実施して研究の活性化を図った。また、国家試験強化対策事業の推進及び実習室、学習室の増設・改修など教育環境の整備を行った。

病院部門では、引き続き看護師の募集活動や就業環境改善、老朽化施設及び医療機器の更新などを行った。

収入面では、医療収入で過去最高となる 191 億 5 千 1 百万円を確保し、創立 40 周年記念事業に係る寄付金や国からの補助金などで増収となったことにより、帰属収入合計は前年比 10 億 2 千 8 百万円増の 276 億 2 千 8 百万円となった。

支出面では、医療スタッフの拡充による人件費増などにより、消費支出合計は前年度を 6 億 7 千 9 百万円上回る 266 億 5 千 7 百万円となった。この結果、帰属収入から消費支出を差引いた収支差額は 9 億 7 千 1 百万円の収入超過という結果になった。

1) 消費収支計算書（表 1 参照）

《帰属収入の部》

学生生徒等納付金

平成 23 年度決算に対し（以下、前年比という。）9 百万円減の 48 億 9 千 1 百万円となった。学生数は、医学部生 662 名（前年比 8 名減）、大学院生 83 名（同 1 名減）、看護学部生 256 名（同増減なし）の合計 1,001 名（同 9 名減）。

手数料

平成 25 年度医学部入学志願者は過去最多の 2,863 名となり、看護学部の入学志願者は 255 名で、これらの入学検定料ほかで、1 億 7 千 8 百万円となった。

寄付金

寄付金総額は、前年比 2 億 6 千 1 百万円増の 10 億 9 千 7 百万円となった。特別寄付金のうち 4 億 2 千 4 百万円が創立 40 周年記念事業に係るもの。

補助金

補助金総額は、前年比 3 億 1 千 8 百万円増の 16 億 3 千 5 百万円となった。

うち、私立大学等経常費補助金は 4 千 5 百万円増の 12 億 2 千 3 百万円、文部科学省研究装置設備補助金は戦略的研究基盤形成支援事業補助金、教育研究活性化設備整備補助金と合わせて 1 億 7 千 4 百万円となった。その他の補助金には、レジデントハウス建設に係る補助金 1 億 2 千 8 百万円が含まれている。

資産運用収入

資産運用収入は、受取利息・配当金が 4 千 8 百万円、施設設備利用料が 9 千 5 百万円の合計 1 億 4 千 3 百万円となった。

医療収入

医療収入総額は、前年比 3 億 4 千万円増の 191 億 5 千 1 百万円となった。

入院収入は、病床利用率が 84.4%と 0.2 ポイント増加し、診療単価が 5.5%増加したことなどにより、前年比 2 億 9 千 1 百万円増の 144 億 2 百万円となった。

外来収入は、外来延患者数が 0.4%減少したが、診療単価が 1.9%増加したことなどにより、前年比 4 千 9 百万円増の 47 億 4 千 9 百万円となった。

なお、医療収入の帰属収入に占める割合は 69.3%（前年度 70.7%）。

以上により、平成 24 年度の帰属収入の部合計は、前年比 10 億 2 千 8 百万円増の 276 億 2 千 8 百万円となった。

《消費支出の部》

人件費

人件費総額は、前年比 3 億 8 千 6 百万円増となる 126 億 2 千万円となった。

うち、教員人件費は、7 千 1 百万円増の 38 億 3 千 7 百万円、職員人件費は看護師などの医療スタッフ増員により、2 億 4 千 4 百万円増の 79 億 7 千 8 百万円、役員報酬は 9 千万円となった。

また、退職給与引当金繰入額及び退職金は、定年退職者が前年より多かったことから、7 千 4 百万円増の 7 億 1 千 5 百万円となっている。

なお、人件費の帰属収入に占める割合は 45.7%（前年度 46.0%）。

教育研究経費

医学部及び看護学部为国家試験強化対策事業の拡充、戦略的研究基盤形成支援事業の実施、若手医師及び本学卒業生の研究活性化を目的とする特別研究推進事業の実施、国からの委託研究の増加により前年比 6 千 6 百万円増の 17 億 6 千 9 百万円となった。

医療経費

前年比 5 千 7 百万円増の 88 億 3 千万円となった。医療収入の増収に伴い、薬品費が 2 千 9 百万円増、医療材料費が 7 千 4 百万円増となった。

なお、医療経費の医療収入に占める割合は 45.8%（前年度 46.6%）、帰属収入に占める割合は 32.0%（同 33.0%）。

管理経費

前年比 1 億 1 千 1 百万円増の 6 億 9 千 4 百万円となった。増加の要因は、創立 40 周年記念事業式典費及び医療事故の解決金などによるもの。

減価償却額及び資産処分差額等

減価償却額及び資産処分差額の合計額は、前年比 5 千 8 百万円増の 27 億 4 千 2 百万円となった。

以上により、平成 24 年度の消費支出の部合計は、前年比 6 億 7 千 9 百万円増の 266 億 5 千 7 百万円となった。

この結果、帰属収入の部合計 276 億 2 千 8 百万円から、消費支出の部の合計 266 億 5 千 7 百万円を差引いた収支差額は、前年比 3 億 4 千 9 百万円増となる 9 億 7 千 1 百万円の収入超過となった。

2) 資金収支計算書 (表 2 参照)

《資金収入の部》

借入金等収入

期中の運転資金として銀行から 10 億円を借入れた。

また、教育振興基金 (学校債) を募集し、3 億 6 千 3 百万円の資金調達を行った。

前受金収入

平成 25 年度学生生徒納付金等の前受金は、前年比 1 億 4 千 5 百万円減の 26 億 4 千 9 百万円となった。なお、医学部学納金の前後期分割納入は 6 年が経過し、平成 25 年度から全学年で実施されることになる。

その他の収入

前期末未収入金の増加や氷見市民病院からの元入金戻入れなどで前年比 2 億 6 千 9 百万円増の 40 億 7 千 6 百万円となった。

《資金支出の部》

借入金等返済支出

期中に借入れた短期借入金 10 億円を返済した。

また、学校債については、定期償還及び繰上償還等で 3 億 9 千 8 百万円を返済した。

施設関係支出

医学教育棟建設工事着手金 13 億 4 千 5 百万円、レジデントハウス建設工事 7 億 5 百万円 (うち、補助金交付額 1 億 2 千 8 百万円)、基礎研究棟受変電設備更新工事 7 千 8 百万円、中央監視装置リモートステーション更新工事 6 千 3 百万円、構内駐車場増設工事 5 千 1 百万円ほかで、合計 23 億 8 千万円を支出した。

設備関係支出

細胞解析分離装置セルソータシステム 7 千 5 百万円 (うち、補助金交付額 3 千 5 百万円)、液体クロマトグラフ質量分析計 5 千万円 (同、2 千 5 百万円)、高速高感度タイムラプスシステム 5 千万円 (同、2 千 5 百万円)、血管インターベンション・シミュレーショントレーナー 5 千万円 (同、5 千万円) 及び医療機器の更新などで、合計 6 億 7 千 4 百万円を支出した。

その他の支出

その他の支出には奨学事業貸付金が含まれており、医学部生に 1 億 6 百万円、看護学部生に 9 千万円を支出した。

以上の資金収支計算の結果、平成 24 年度の次年度繰越支払資金 (手持運転資金) は前年比 5 億 9 千 3 百万円増となる 60 億 1 千 4 百万円となった。

3) 貸借対照表 (表 3 参照)

《資産の部》

資産総額は、前年比 8 億 4 千 3 百万円増の 549 億 2 千 9 百万円となった。

これは、建物ほかの除却や減価償却による減少額に対して建設仮勘定や流動資産の増加額が上回ったことによるもの。

固定資産

固定資産は、前年比 2 億 9 千 7 百万円増の 453 億 1 千 6 百万円となった。

建物が 5 億 1 千 2 百万円減少しているのは、除却額及び減価償却額が取得額を上回ったため。

教育研究用機器備品が 3 億円減少しているのは、除却額及び減価償却額が取得額を上回ったため。

建設仮勘定が 11 億 5 千 1 百万円増加しているのは、医学教育棟建設工事の着手金を支払ったため。

金沢医科大学氷見市民病院への収益事業元入金は、1 億 6 千 4 百万円を戻し入れた。

長期貸付金は医学部生及び看護学部生への奨学金の貸与で、6 億 9 千 1 百万円となった。

退職給与引当特定資産等の特定資産は、新規の積立てを行わなかった。

流動資産

流動資産は、前年比 5 億 4 千 6 百万円増の 96 億 1 千 3 百万円となった。

うち、現金預金は前年比 5 億 9 千 3 百万円増の 60 億 1 千 4 百万円。

《負債の部》

負債総額は、前年比 1 億 2 千 8 百万円減の 170 億 9 千 1 百万円となった。

固定負債

退職給与引当金は、定年退職者の取崩しが多かったため、前年比 1 億 3 千 3 百万円減の 75 億 5 千万円となった。

流動負債

前受金が減少したのは、学納金の前後期分割納入制度の進行によるもの。

《正味財産の部》

正味財産（純資産）は、前年比 9 億 7 千 1 百万円増の 378 億 3 千 8 百万円となった。この増加額は、消費収支計算書（表 1）の差引消費収支差額に一致する。

資産総額に対する正味財産の割合は 68.9%となり、前年度より 0.7 ポイント増加した。

(表 1) 消費収支計算書

(▼は比較上の減少を表す) (単位:百万円)						
帰属収入の部	① 24年度 決 算	② 23年度 決 算	差 異 ①－②	③ 24年度 予 算	差 異 ①－③	24年度決算 帰属収入比
学生生徒等納付金	4,891	4,900	▼9	4,870	21	17.7%
手数料	178	170	8	170	8	
寄付金	1,097	836	261	810	287	4.0%
特別寄付金(寄附講座等)	454	218	236	250	204	
一般寄付金入学時	149	211	▼62	200	▼51	
一般寄付金その他	461	372	89	350	111	
現物寄付金	33	35	▼2	10	23	
補助金	1,635	1,317	318	1,596	39	5.9%
経常費補助金	1,223	1,178	45	1,170	53	
文科省設備補助金	174	11	163	206	▼32	
臨床研修費補助金	37	37	0	40	▼3	
その他の補助金	201	91	110	180	21	
資産運用収入	143	135	8	130	13	0.5%
受取利息配当金	48	36	12	30	18	
施設設備利用料	95	99	▼4	100	▼5	
事業収入	364	298	66	260	104	
医療収入	19,151	18,811	340	19,311	▼160	69.3%
入院収入	14,402	14,111	291	14,610	▼208	(23決算比 1.8%増)
外来収入	4,749	4,700	49	4,701	48	
雑収入	169	133	36	60	109	
帰属収入の部合計	27,628	26,600	1,028	27,207	421	100.0%
消費支出の部	① 24年度 決 算	② 23年度 決 算	差 異 ①－②	③ 24年度 予 算	差 異 ①－③	24年度決算 帰属収入比
人件費	12,620	12,234	386	12,630	▼10	45.7%
教員人件費	3,837	3,766	71	3,802	35	(23年度決 算 46.0%)
職員人件費	7,978	7,734	244	7,954	24	
役員報酬	90	93	▼3	95	▼5	
退職給与引当金繰入額 及び退職金	715	641	74	779	▼64	
教育研究経費	1,769	1,703	66	1,645	124	6.4%
医療経費	8,830	8,773	57	9,097	▼267	32.0%
薬品費	3,584	3,555	29	3,651	▼67	(H24 医療収 入比 45.8%)
医療材料費	2,622	2,548	74	2,672	▼50	
給食材料費	210	222	▼12	217	▼7	(H23 医療収 入比 46.6%)
医療検査費	132	131	1	132	0	
その他の医療経費	2,282	2,317	▼35	2,425	▼143	
管理経費	694	583	111	574	120	2.5%
借入金等利息	2	1	1	5	▼3	
減価償却・資産処分差額	2,742	2,684	58	2,750	▼8	9.9%
予備費	0	0	0	50	▼50	
消費支出の部合計	26,657	25,978	679	26,751	▼94	96.5%
収支差額	971	622	349	456	515	3.5%
有価証券評価差額	0	0	0	0	0	
差引消費収支差額	971	622	349	456	515	

(表2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

資金収入の部	① 24年度 決 算	② 23年度 決 算	差 異 ①－②	③ 24年度 予 算	差 異 ①－③
資金を伴う帰属収入	27,595	26,564	1,031	27,197	398
帰属収入の部合計	27,628	26,600	1,028	27,207	421
非資金収入除外	△33	△36	3	△10	▼23
資産売却収入	0	0	0	0	0
借入金等収入	1,363	1,385	▼22	1,400	▼37
短期借入金収入	1,000	1,000	0	1,000	0
学校債収入	363	385	▼22	400	▼37
前受金収入	2,649	2,794	▼145	2,580	69
その他の収入	4,076	3,807	269	3,805	271
資金収入調整勘定	△6,212	△6,564	352	△6,390	178
期末未収入金	△3,418	△3,460	42	△3,596	178
前期末前受金	△2,794	△3,104	310	△2,794	0
資金収入の部合計	29,471	27,986	1,485	28,592	879
資金支出の部	① 24年度 決 算	② 23年度 決 算	差 異 ①－②	③ 24年度 予 算	差 異 ①－③
資金を伴う消費支出	24,044	23,176	868	24,001	43
消費支出の部合計	26,657	25,978	679	26,751	▼94
非資金支出除外	△2,613	△2,802	189	△2,750	137
借入金等返済支出	1,398	1,525	▼127	1,500	▼102
借入金返済支出	1,000	1,000	0	1,000	0
学校債返済支出	398	525	▼127	500	▼102
施設関係支出	2,380	486	1,894	2,380	0
設備関係支出	674	624	50	740	▼66
資産運用支出	0	382	▼382	0	0
その他の支出	3,204	3,209	▼5	3,192	12
資金支出調整勘定	△2,822	△2,614	▼208	△2,737	▼85
期末未払金	△2,785	△2,613	▼172	△2,700	▼85
前期末前払金	△37	△1	▼36	△37	0
資金支出の部合計	28,878	26,788	2,090	29,076	▼198
差引資金収支差額	593	1,198	▼605	△484	1,077
前年度繰越支払資金	5,421	4,223	1,198	5,421	0
次年度繰越支払資金	6,014	5,421	593	4,937	1,077

(△は計算書式上のマイナス値) (▼は比較上の減少を表す)

(表3) 貸借対照表

資 産 の 部	① 24年度 決 算	② 23年度 決 算	増 減 ①－②	(単位:百万円) 構成比率	
				①24年度	②23年度
固定資産	45,316	45,019	297	82.5%	83.2%
有形固定資産	31,821	31,472	349	57.9%	58.2%
土地	3,206	3,206	0		
建物	20,399	20,911	▼512		
構築物	637	631	6		
教育研究用機器備品	4,893	5,193	▼300		
その他の機器備品	64	57	7		
図書	1,247	1,241	6		
車輛	10	19	▼9		
建設仮勘定	1,365	214	1,151		
その他の固定資産	13,495	13,547	▼52	24.6%	25.0%
電話加入権、施設利用権	12	12	0		
有価証券、出資金他	61	61	0		
収益事業元入金	847	1,011	▼164		
長期貸付金	691	579	112		
退職給与引当特定資産	6,138	6,138	0		
減価償却引当特定資産	3,096	3,096	0		
施設拡充引当特定資産	1,700	1,700	0		
海外交流引当特定資産	500	500	0		
医学部奨学事業特定資産	400	400	0		
臨床研修奨学事業特定資産	50	50	0		
流動資産	9,613	9,067	546	17.5%	16.8%
現金預金	6,014	5,421	593		
未収入金	3,412	3,449	▼37		
貯蔵品	157	159	▼2		
前払金、仮払金	30	38	▼8		
資 産 の 部 合 計	54,929	54,086	843	100.0%	100.0%
負 債 の 部	① 24年度 決 算	② 23年度 決 算	増 減 ①－②	構成比率	
				①24年度	②23年度
固定負債	10,906	11,152	▼246	19.9%	20.6%
学校債	3,356	3,469	▼113		
退職給与引当金	7,550	7,683	▼133		
流動負債	6,185	6,067	118	11.3%	11.2%
学校債	373	295	78		
未払金	2,785	2,614	171		
前受金	2,649	2,794	▼145		
預り金、仮受金	378	364	14		
負 債 の 部 合 計	17,091	17,219	▼128	31.1%	31.8%
正味財産の部 合計	37,838	36,867	971	68.9%	68.2%
負債及び正味財産の部 合計	54,929	54,086	843	100.0%	100.0%

(▼は比較上の減少を表す)

2. 最近5カ年の財務状況

(1) 消費収支の状況

(単位:百万円)

科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入の部					
学生生徒等納付金	4,593	4,803	4,964	4,900	4,891
手数料	157	139	159	170	178
寄付金	564	559	631	836	1,097
補助金収入	2,036	1,449	1,148	1,317	1,635
資産運用収入	389	219	150	135	143
事業収入	205	232	258	298	364
医療収入	17,020	17,500	18,271	18,811	19,151
雑収入	135	114	100	133	169
帰属収入合計	25,099	25,015	25,681	26,600	27,628
支出の部					
人件費	11,571	11,933	12,149	12,234	12,620
教育研究経費	2,296	2,356	2,292	2,436	2,445
医療経費	10,250	10,280	10,259	10,581	10,584
管理経費	621	593	584	686	860
借入金等利息	0	2	1	1	2
資産処分差額	3,576	264	1,500	29	141
徴収不能額等	6	11	6	11	5
消費支出の部合計	28,320	25,439	26,791	25,978	26,657
収支差額	△ 3,221	△ 424	△ 1,110	622	971

(2) 資金収支の状況

(単位:百万円)

科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	4,593	4,803	4,964	4,900	4,891
手数料収入	157	139	159	170	178
寄付金収入	531	553	620	800	1,064
補助金収入	2,036	1,449	1,148	1,317	1,635
資産運用収入	389	219	150	135	143
事業収入	205	232	258	298	364
医療収入	17,020	17,500	18,270	18,811	19,151
雑収入	135	114	98	133	169
借入金等収入	1,318	1,350	1,404	1,385	1,363
前受金収入	3,698	3,491	3,104	2,794	2,649
その他の収入	4,679	4,033	3,558	3,807	4,076
資金収入調整勘定	△ 7,663	△ 6,910	△ 6,875	△ 6,564	△ 6,212
合計	27,098	26,973	26,858	27,986	29,471
支出の部					
人件費支出	11,389	11,839	12,194	12,117	12,753
教育研究経費支出	1,552	1,595	1,601	1,703	1,768
医療経費支出	8,587	8,485	8,455	8,771	8,827
管理経費支出	557	490	479	583	694
借入金等利息支出	0	2	1	1	2
借入金等返済支出	1,532	1,561	1,482	1,525	1,398
施設関係支出	3,067	537	853	487	2,380
設備関係支出	1,115	832	734	624	674
資産運用支出	1,033	1,255	741	382	0
その他の支出	2,717	2,929	2,899	3,209	3,204
資金支出調整勘定	△ 2,450	△ 2,424	△ 2,676	△ 2,614	△ 2,822
合計	29,099	27,101	26,763	26,788	28,878
差引資金収支差額	△ 2,001	△ 128	95	1,198	593
前年度繰越支払資金	6,257	4,256	4,128	4,223	5,421
次年度繰越支払資金	4,256	4,128	4,223	5,421	6,014

(3) 貸借対照表

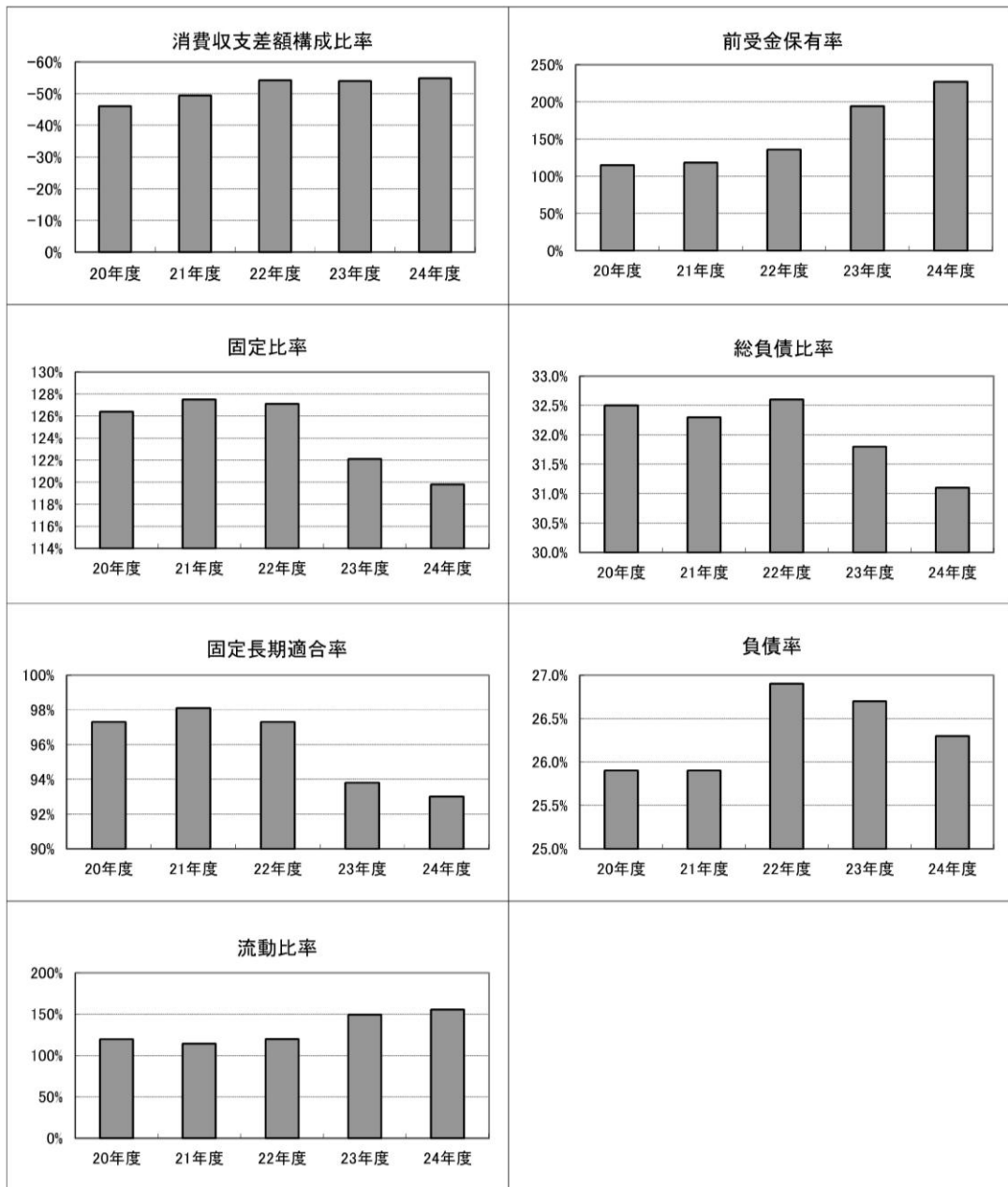
(単位:百万円)

資 産 の 部					
科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
固 定 資 産	47,754	47,639	46,050	45,019	45,316
土地	3,206	3,206	3,206	3,206	3,206
建物	23,992	23,088	22,235	20,911	20,399
構築物	759	711	665	631	637
教育研究用機器備品	5,959	5,778	5,554	5,193	4,893
その他の機器備品	60	57	54	57	64
図書	1,225	1,230	1,237	1,241	1,247
車輛	35	31	28	19	10
建設仮勘定	123	0	21	214	1,365
退職給与引当特定資産	6,138	6,138	6,138	6,138	6,138
減価償却引当特定資産	4,749	4,489	3,096	3,096	3,096
施設拡充引当特定資産	0	1,000	1,700	1,700	1,700
医学教育海外交流引当特定資産	500	500	500	500	500
医学部奨学事業引当特定資産	400	400	400	400	400
臨床研修奨学事業引当特定資産	0	50	50	50	50
その他の固定資産	608	961	1,166	1,663	1,611
流 動 資 産	8,183	7,519	7,763	9,067	9,613
現金預金	4,256	4,128	4,222	5,421	6,014
未収入金	3,728	3,202	3,379	3,449	3,413
その他の流動資産	199	189	162	197	186
資 産 の 部 合 計	55,937	55,158	53,813	54,086	54,929
負 債 の 部					
科 目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
固 定 負 債	11,322	11,218	11,095	11,152	10,906
学校債	3,803	3,605	3,529	3,469	3,356
退職給与引当金	7,519	7,613	7,566	7,683	7,550
流 動 負 債	6,836	6,585	6,473	6,067	6,185
学校債	390	377	375	295	373
未払金	2,433	2,424	2,655	2,614	2,785
前受金	3,698	3,491	3,104	2,794	2,649
預り金、仮受金	315	293	339	364	378
負 債 の 部 合 計	18,158	17,803	17,568	17,219	17,091
正 味 財 産 の 部 合 計	37,779	37,355	36,245	36,867	37,838
負債及び正味財産の部合計	55,937	55,158	53,813	54,086	54,929

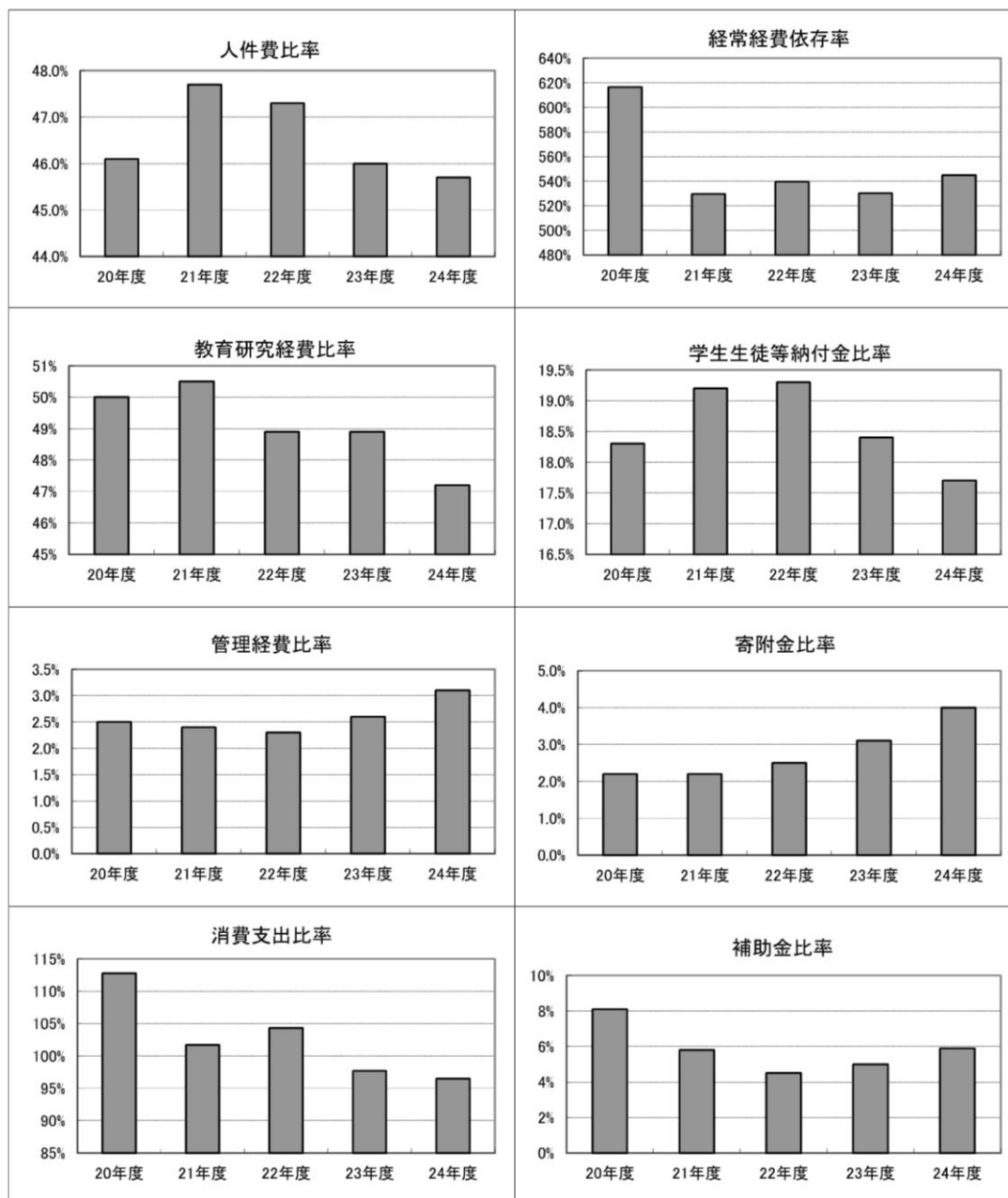
(4) 財務比率経年比較表

分類	比 率	算式 (×100)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	-46.0%	-49.4%	-54.2%	-54.0%	-54.8%
	固 定 比 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	126.4%	127.5%	127.1%	122.1%	119.8%
	固 定 長 期 適 合 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	97.3%	98.1%	97.3%	93.8%	93.0%
	流 動 比 率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	119.7%	114.2%	119.9%	149.4%	155.4%
	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	115.1%	118.2%	136.0%	194.0%	227.0%
	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 金}}$	32.5%	32.3%	32.6%	31.8%	31.1%
	負 債 率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	25.9%	25.9%	26.9%	26.7%	26.3%
消 費 収 支 計 算 書	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	46.1%	47.7%	47.3%	46.0%	45.7%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	50.0%	50.5%	48.9%	48.9%	47.2%
	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	2.5%	2.4%	2.3%	2.6%	3.1%
	消 費 支 出 比 率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	112.8%	101.7%	104.3%	97.7%	96.5%
	【經常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	616.5%	529.6%	539.7%	530.2%	545.0%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰 属 収 入}}$	18.3%	19.2%	19.3%	18.4%	17.7%
	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	2.2%	2.2%	2.5%	3.1%	4.0%
	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	8.1%	5.8%	4.5%	5.0%	5.9%

主な財務比率の経年比較(貸借対照表関係)



主な財務比率の経年比較(消費収支計算書関係)



3. 金沢医科大学氷見市民病院 損益計算書及び貸借対照表（表4参照）

新病院開院1周年を迎えた平成24年度は、医療スタッフを増員し10月から7対1看護体制を確保するなどの増収策により医業収益は大幅に増加した。この結果、医業利益は改善し、経常利益は9千5百万円の黒字となった。

《損益計算書》

医業収益

医業収益は、前年比4億6千8百万円増の50億6千8百万円で、入院収益は、前年比4億3千万円増の32億6千3百万円、外来収益は、前年比3千万円増の17億8千5百万円。

医業費用

医業費用は、前年比5千4百万円増の53億7千2百万円で、材料費が前年比8千3百万円減の14億8千8百万円、給与費が前年比6千8百万円増の28億9千7百万円、委託費が4億5千1百万円、設備関係費が1億1千万円、その他の経費で2億3千8百万円、氷見市への指定管理者負担金は7千9百万円増の1億8千8百万円。

医業外収益

氷見市からの交付金3億6千8百万円など補助金収益は3億7千8百万円。

以上により、当年度の経常利益は9千5百万円となった。

《貸借対照表》

資産総額は前年比9千4百万円増の14億5千8百万円、負債総額は前年比1億6千3百万円増の8億9千万円、純資産は前年比6千9百万円減の5億6千8百万円。

流動資産

流動資産は前年比1億5百万円増の13億1千9百万円。

うち、現金預金は1千2百万円、未収入金は12億5千8百万円、貯蔵品は4千9百万円。

未収入金が1億6百万円増加しているのは、増収に伴う医療未収入金の増加によるもの。

固定資産

固定資産は既存の機器備品の減価償却などで、前年比1千1百万円減の1億3千9百万円となった。

流動負債

流動負債は前年比1億1千7百万円増の6億6千4百万円。

うち、未払金は4億7千万円、預り金は4千3百万円、賞与引当金は1億5千1百万円。

未払金が1億1千万円増加しているのは、増収に伴う薬品費等の医療材料費が増えたため。また、賞与引当金が3百万円増加しているのは医療スタッフの増加によるもの。

固定負債

退職給付引当金は、前年比4千6百万円増の2億2千6百万円となった。

純資産

大学会計からの収益事業元入金は1億6千4百万円減の8億4千7百万円となった。また、利益剰余金は9千5百万円改善し、累積損失は2億7千9百万円となった。

以上

(表 4) 金沢医科大学氷見市民病院 損益計算書及び貸借対照表

《損益計算書》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前 年 比	科 目	決 算 額	前 年 比
	金 額	金 額		金 額	金 額
医業収益	5,068	468	医業費用	5,372	54
入院収益	3,263	430	材料費	1,488	▼83
外来収益	1,785	30	給与費	2,897	68
受託事業収益	6	5	委託費	451	4
施設設備利用収益	14	3	設備関係費	110	▼7
			経費	238	▼7
			指定管理者負担金	188	79
			医 業 利 益	△ 304	414
医業外収益	399	14	医業外費用	0	0
寄付金収益	10	3			
補助金収益	378	13			
雑益	11	▼2	経 常 利 益	95	428

《貸借対照表》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前 年 比	科 目	決 算 額	前 年 比
	金 額	金 額		金 額	金 額
流動資産	1,319	105	流動負債	664	117
現金及び預金	12	▼1	未払金	470	110
未収入金	1,258	106	預り金	43	4
徴収不能引当金	△ 9	▼2	賞与引当金	151	3
貯蔵品	49	2	その他	0	0
その他	9	0	固定負債	226	46
固定資産	139	▼11	退職給付引当金	226	46
工具器具備品	174	6	負債の部合計	890	163
減価償却累計額	△ 36	▼17	純資産	568	▼69
車輛	2	0	元入金	847	▼164
減価償却累計額	△ 1	0	利益剰余金	△ 279	95
			純資産の部合計	568	▼69
資 産 の 部 合 計	1,458	94	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,458	94

学校法人金沢医科大学

平成 24 年度事業報告書

発 行 日 平成 25 年 5 月 30 日

発 行 者 学校法人金沢医科大学理事長 竹越 襄

企 画・編 集 経営企画室

財務部

発 行 所 金沢医科大学出版局

〒920-0293

石川県河北郡内灘大学1丁目1番地

電話 076-286-2211(代表)